

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	平成31年3月7日提出
【発行者名】	三井住友アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松下 隆史
【本店の所在の場所】	東京都港区愛宕二丁目5番1号
【事務連絡者氏名】	土田 雅央
【電話番号】	03-5405-0740
【届出の対象とした募集(売出)内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型) BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)
【届出の対象とした募集(売出)内国投資 信託受益証券の金額】	継続募集額(平成31年3月8日から平成31年9月12日まで) BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型) 7,500億円を上限とします。 BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型) 7,500億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【証券情報】

### （１）【ファンドの名称】

BDCプラス（為替ヘッジあり／年４回決算型）

BDCプラス（為替ヘッジなし／年４回決算型）

以下、上記２ファンドを総称して「当ファンド」ということがあり、それぞれを「各ファンド」ということがあります。また、「BDCプラス（為替ヘッジあり／年４回決算型）」を「（為替ヘッジあり）」、「BDCプラス（為替ヘッジなし／年４回決算型）」を「（為替ヘッジなし）」という略称でいうことがあります。

### （２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

\* ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第２条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である三井住友アセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

当初元本は１口当たり１円です。委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

### （３）【発行（売出）価額の総額】

各ファンド7,500億円を上限とします。

### （４）【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

「基準価額」とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した価額をいいます（基準価額は、便宜上１万口単位で表示される場合があります。）。

基準価額は、組入有価証券の値動き等により日々変動します。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、「（為替ヘッジあり）」は「BDC＋有４」、「（為替ヘッジなし）」は「BDC＋無４」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号	インターネット・ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	http://www.smam-jp.com

お問い合わせは、原則として営業日の午前９時～午後５時までとさせていただきます。

**( 5 ) 【申込手数料】**

原則として、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に、3.24%（税抜き3.0%）を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める申込手数料率を乗じて得た額となります。

累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は無手数料となります。

申込手数料に関する詳細は、お申込みの販売会社または前記「( 4 ) 発行（売出）価格」に記載の委託会社に問い合わせることにより知ることができます。

**( 6 ) 【申込単位】**

お申込単位の詳細は、お申込みの販売会社または前記「( 4 ) 発行（売出）価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。

**( 7 ) 【申込期間】**

2019年3月8日から2019年9月12日まで

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

**( 8 ) 【申込取扱場所】**

販売会社において申込みを取り扱います。

販売会社によっては（為替ヘッジあり）もしくは（為替ヘッジなし）のいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

販売会社の詳細につきましては、前記「( 4 ) 発行（売出）価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。

**( 9 ) 【払込期日】**

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に申込手数料および当該手数料にかかる消費税等相当額を加算した額を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

**( 10 ) 【払込取扱場所】**

販売会社において払込みを取り扱います。（販売会社は前記「( 4 ) 発行（売出）価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。）

**( 11 ) 【振替機関に関する事項】**

当ファンドの振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

## ( 1 2 ) 【その他】

## イ 申込証拠金

ありません。

## ロ 日本以外の地域における募集

ありません。

## ハ スイッチング

販売会社によっては、「スイッチング」（ある投資信託の換金による手取額をもって、他の投資信託を買い付けること）による当ファンドの取得申込みを取り扱う場合があります。

## ニ お申込不可日

上記にかかわらず、取得申込日がニューヨークの取引所または銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、ファンドの取得申込みはできません（また、該当日には、解約請求のお申込みもできません。）。

## ホ クーリング・オフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用

ありません。

## ヘ 振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとし、ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および当該振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

## （参考：投資信託振替制度）

- ・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理するもので、ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿（「振替口座簿」といいます。）への記載・記録によって行われます。
- ・受益証券は発行されませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます（原則として受益証券を保有することはできません。）。
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### （1）【ファンドの目的及び基本的性格】

- イ 当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主としてBDC（ビジネス・ディベロップメント・カンパニー）等に投資しつつ、米ドル建ての短期ハイイールド社債および新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りを確保しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
- ロ 委託会社は、受託会社と合意の上、各ファンドにつき、金1,500億円を限度として信託金を追加することができます。この限度額は、委託会社、受託会社の合意により変更できます。
- ハ 当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

##### （イ）当ファンドが該当する商品分類

BDCプラス（為替ヘッジあり／年4回決算型）

BDCプラス（為替ヘッジなし／年4回決算型）

項目	該当する商品分類	内容
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	海外	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 （収益の源泉）	資産複合	目論見書または信託約款において、株式、債券、不動産投信（リート）、その他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

##### （ロ）当ファンドが該当する属性区分

BDCプラス（為替ヘッジあり／年4回決算型）

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（資産複合（株式、債券）資産配分変更型））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載していません。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は株式および債券であり、ファンドの収益はそれぞれの市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「資産複合」となります。
決算頻度	年4回	目論見書または信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	北米、 エマージング	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が北米、エマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

為替ヘッジ	為替ヘッジあり (フルヘッジ)	目論見書または信託約款において、対円での為替のフルヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
-------	--------------------	--

## BDCプラス（為替ヘッジなし / 年4回決算型）

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（資産複合（株式、債券）資産配分変更型））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載していません。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は株式および債券であり、ファンドの収益はそれぞれの市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「資産複合」となります。
決算頻度	年4回	目論見書または信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	北米、 エマージング	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が北米、エマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	為替ヘッジなし	目論見書または信託約款において、対円での為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは対円での為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

## 商品分類表

BDCプラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

BDCプラス（為替ヘッジなし / 年4回決算型）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式 債券
追加型	海外	不動産投信 その他資産 ( )
	内外	資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

## 属性区分表

BDCプラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ

株式 一般 大型株 中小型株	年1回  年2回  <b>年4回</b>	グローバル  日本  <b>北米</b>		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年6回(隔月)  年12回(毎月)  日々  その他 ( )	欧州  アジア  オセアニア  中南米  アフリカ  中近東(中東)  <b>エマージング</b>	ファミリーファンド	<b>あり</b> <b>(フルヘッジ)</b>
不動産投信			<b>ファンド・オブ・ファンズ</b>	なし
<b>その他資産</b> <b>(投資信託証券(資産複合(株式、債券)資産配分変更型))</b>				
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

BDCプラス（為替ヘッジなし/年4回決算型）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回  年2回  <b>年4回</b>	グローバル  日本  <b>北米</b>		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年6回(隔月)  年12回(毎月)  日々  その他 ( )	欧州  アジア  オセアニア  中南米  アフリカ  中近東(中東)  <b>エマージング</b>	ファミリーファンド	あり ( )
不動産投信			<b>ファンド・オブ・ファンズ</b>	なし
<b>その他資産</b> <b>(投資信託証券(資産複合(株式、債券)資産配分変更型))</b>				
資産複合 ( )				

資産配分固定型 資産配分変更型			
--------------------	--	--	--

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分の「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しています。商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

## （２）【ファンドの沿革】

2016年12月16日 信託契約締結、設定、運用開始。

## （３）【ファンドの仕組み】

イ 当ファンドの関係法人とその役割

（イ）委託会社 「三井住友アセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）および運用報告書の作成等を行います。

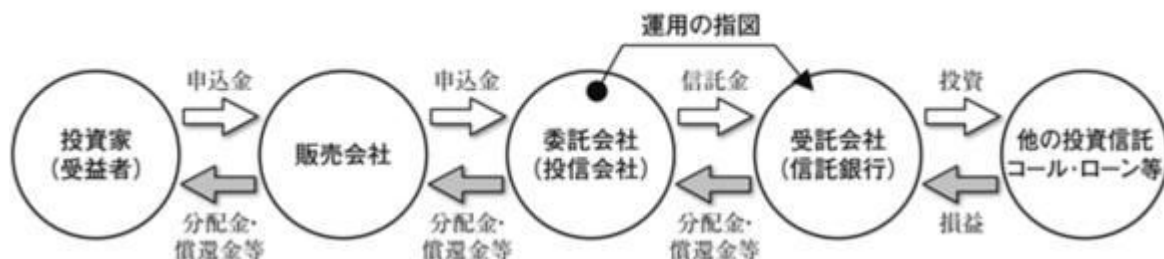
（ロ）受託会社 「株式会社S M B C信託銀行」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

（ハ）販売会社

委託会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問いません。）に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、受益者からの一部解約実行請求の受付、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。

### 運営の仕組み



## ロ 委託会社の概況

（イ）資本金の額

2,000百万円（2018年12月28日現在）

（ロ）会社の沿革

1985年7月15日 三生投資顧問株式会社設立  
 1987年2月20日 証券投資顧問業の登録  
 1987年6月10日 投資一任契約にかかる業務の認可  
 1999年1月1日 三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合



- 1999年2月5日 三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更
- 2000年1月27日 証券投資信託委託業の認可取得
- 2002年12月1日 住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更
- 2013年4月1日 トヨタアセットマネジメント株式会社と合併

## (八) 大株主の状況

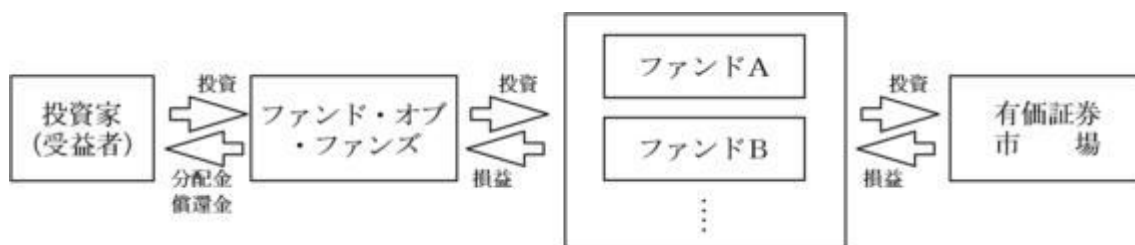
(2018年12月28日現在)

名称	住所	所有株式数	比率(%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	10,584,000	60.0
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	3,528,000	20.0
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	3,528,000	20.0

## 八 ファンドの運用形態（ファンド・オブ・ファンズによる運用）

一般に、「ファンド・オブ・ファンズ」においては、株式や債券などの有価証券に直接投資するのではなく、複数の他の投資信託（ファンド）を組み入れることにより運用を行います（投資信託に投資する投資信託）。また、種々の特長を持った投資信託を購入することにより、効率的に資産配分を行います。

## 〔ファンド・オブ・ファンズによる運用〕



## 2 【投資方針】

## (1) 【投資方針】

「(1) 投資方針」には、当ファンドと実質的な投資対象資産（米国の株式、米国および新興国の短期社債等）が同じで、決算頻度が異なるファンドの情報を合わせて説明している部分があります。

## イ 基本方針

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主としてBDC（ビジネス・ディベロップメント・カンパニー）等に投資しつつ、米ドル建ての短期ハイイールド社債および新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りを確保しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

## ロ 投資態度

BDCプラス（為替ヘッジあり/年4回決算型）

(イ) 投資信託証券への投資を通じて、主としてBDC（ビジネス・ディベロップメント・カンパ

ニー）等に投資しつつ、米ドル建ての短期ハイイールド社債および新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りを確保しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

中堅企業等（中小企業から上場企業まで）の事業開発を主に金融面からサポートする投資会社をいいます。

- (ロ) BDCを投資対象とする投資信託証券への投資は、原則として信託財産の純資産総額の50%以上とします。ただし、資金動向や市況変動の影響等により下回る場合もあります。
- (ハ) 市場のリスク選好状況を定量的に捉え、各投資信託証券への配分比率（一部短期金融資産へ配分する場合もあります。）を機動的に調整することにより、リスク水準の抑制とリターン増大を目指します。
- (ニ) 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
- (ホ) 投資信託証券への投資は、高位を保つことを原則とします。
- (ヘ) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
- (ト) 主要投資対象とする投資信託証券は、下記の通りとします。

a. SMAM・米国BDCファンド（FOFs用）＜適格機関投資家限定＞

運用会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
主要投資対象	米国ハイ・インカムBDCマザーファンド受益証券
運用の基本方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、米国の取引所に上場している株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

b. SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（FOFs用）＜適格機関投資家限定＞

運用会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
主要投資対象	米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド受益証券
運用の基本方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、米ドル建ての短期ハイ・イールド社債等に投資を行い、安定的な収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

c. アッシュモア・エマージング・マーケッツ・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド（ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス）

投資顧問会社	アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド
主要投資対象	新興国の社債
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>主として、新興国の社債に投資を行い、償還年限の短い債券に投資することによって価格変動リスクを抑制しながら、相対的に高いインカム収入を享受することを目標とします。</li> <li>原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。</li> </ul>

上記ファンドの詳細に関しましては、後述の〔参考情報：投資対象とする投資信託証券の概要〕をご覧ください。

BDCプラス（為替ヘッジなし/年4回決算型）

- (イ) 投資信託証券への投資を通じて、主としてBDC（ビジネス・ディベロップメント・カンパニー）等に投資しつつ、米ドル建ての短期ハイイールド社債および新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りを確保しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

中堅企業等（中小企業から上場企業まで）の事業開発を主に金融面からサポートする投資会社をいいます。

- (ロ) BDCを投資対象とする投資信託証券への投資は、原則として信託財産の純資産総額の50%以上とします。ただし、資金動向や市況変動の影響等により下回る場合もあります。
- (ハ) 市場のリスク選好状況を定量的に捉え、各投資信託証券への配分比率（一部短期金融資産へ配

分する場合があります。)を機動的に調整することにより、リスク水準の抑制とリターンを増大を目指します。

- (二) 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。  
 (ホ) 投資信託証券への投資は、高位を保つことを原則とします。  
 (ヘ) 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。  
 (ト) 主要投資対象とする投資信託証券は、下記の通りとします。

a. SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>

運用会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
主要投資対象	米国ハイ・インカムBDCマザーファンド受益証券
運用の基本方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、米国の取引所に上場している株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

b. SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>

運用会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
主要投資対象	米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド受益証券
運用の基本方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、米ドル建ての短期ハイ・イールド社債等に投資を行い、安定的な収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

c. アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)

投資顧問会社	アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド
主要投資対象	新興国の社債
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として、新興国の社債に投資を行い、償還年限の短い債券に投資することによって価格変動リスクを抑制しながら、相対的に高いインカム収入を享受することを目標とします。</li> <li>・原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>

上記ファンドの詳細に関しましては、後述の〔参考情報：投資対象とする投資信託証券の概要〕をご覧ください。

## ファンドの特色

**1** 主としてBDC等に投資し、同時に米ドル建て短期ハイイールド社債および新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りを確保しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

- BDCへの実質投資割合は、原則として純資産総額の50%以上とします。
- ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



BDCとは

ビジネス・ディベロップメント・カンパニーの略。中堅企業等(中小企業から上場企業まで)の事業開発を主に金融面からサポートする投資会社をいいます。

**2** 市場のリスク選好状況を定量的に捉え、各資産への配分比率を機動的に調整することにより、リスク水準の抑制とリターンの増大を目指します。

- BDC、米ドル建て短期ハイイールド社債および新興国短期社債の3つの資産への配分（「積極的」、「基本」、「保守的」資産配分）は、資産配分戦略に実績を持つ日興グローバルラップからの投資助言を基に決定します。

**3** 各資産の運用は、それぞれの運用に強みを持つ運用会社が行います。



「BDC」の実質的な運用会社

：アドバイザー・リサーチ・インク

「米ドル建て短期ハイイールド社債」の実質的な運用会社

：アクサ・インベストメント・マネージャーズ・インク(米国)

「新興国短期社債」の実質的な運用会社

：アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド

## 4

運用ニーズに合わせて、以下の4種類のファンドからご選択いただけます。

(為替ヘッジあり/年4回決算型) (為替ヘッジなし/年4回決算型)

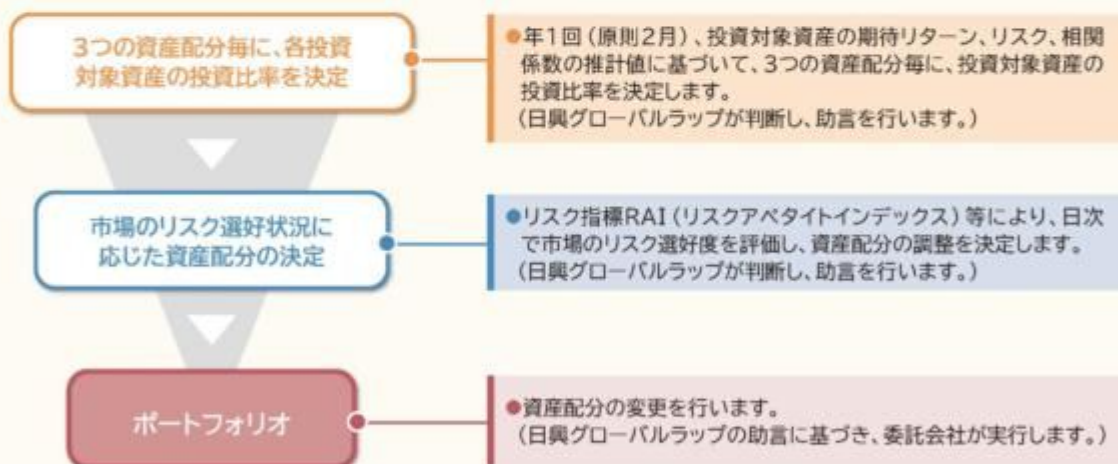
(為替ヘッジあり/年1回決算型) (為替ヘッジなし/年1回決算型)

- (為替ヘッジあり/年4回決算型) (為替ヘッジあり/年1回決算型) は、実質組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。
- (為替ヘッジなし/年4回決算型) (為替ヘッジなし/年1回決算型) は、実質組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- 「年4回決算型」は原則として3月、6月、9月、12月の15日(休業日の場合は翌営業日)、「年1回決算型」は原則として12月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。分配金額は委託会社が分配方針に基づき決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 運用プロセス

- 資産配分については、日興グローバルラップからの助言を受けます。



※上記の運用プロセスは2018年12月末現在のものであり、今後変更される場合があります。



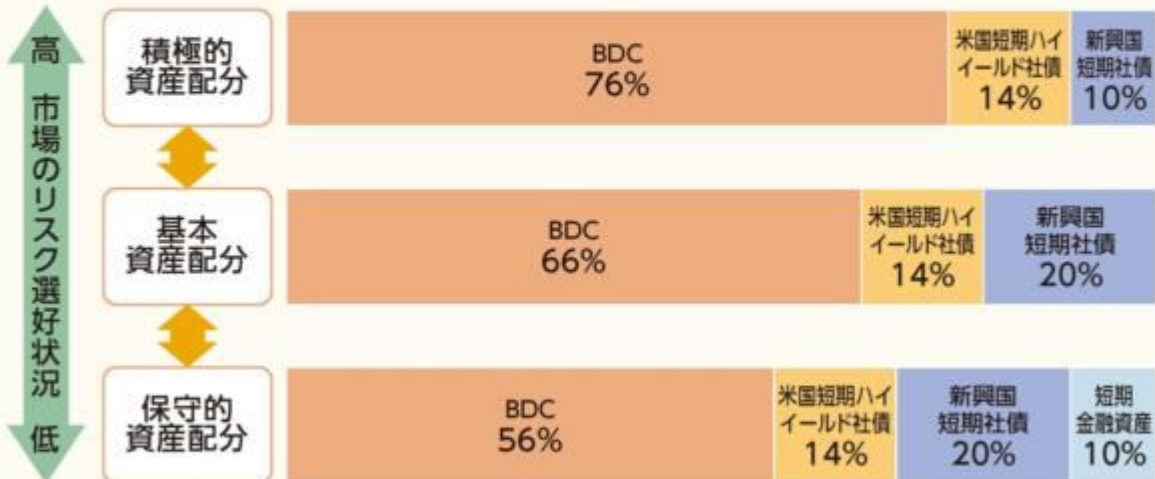
## 日興グローバルラップ

- 定量分析に基づくアセットアロケーションおよび運用会社の評価・選定等に強みを持つ投資顧問会社で、国内のラップビジネスにおいて20年超の運用実績があります。
- 運用資産残高は約2兆円です(2018年12月末現在)。

## 資産配分変更のイメージ

- BDC、米国短期ハイイールド社債、新興国短期社債への配分比率を機動的に変更することで、収益の積み上げと価格変動リスクの抑制を図ります。
- 市場のリスク選好状況に応じて、3つの資産配分（「積極的」、「基本」、「保守的」資産配分）のいずれかに決定します。

### [3つの資産配分とその変更のイメージ]



※3つの資産配分の個別資産の配分比率は、年1回（原則2月）見直し、変更する可能性があります。

※資産配分は2019年2月末現在のものです。

（出所）日興グローバルラップ

※上記資産配分図はイメージであり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。





## BDCとは

■ BDCは、米国経済の下支え役である「中堅企業等」の育成を目的とした「国策」ともいえる投資スキームです。



## BDC投資の魅力

### ▶ 相対的に高い利回り



■ BDCの多くの銘柄は米国の証券取引所に上場しており、法人税の優遇措置を受けるために収益の90%以上を配当していることから、利回りは相対的に高くなります。

(注1) 2018年12月末現在。

(注2) BDCはウェルズファーゴBDC・インデックス(配当込み)、米国ハイイールド社債はICE BofAML US Cash Pay High Yield Index、米国短期ハイイールド社債はICE BofAML 1-3 Year US Cash Pay High Yield Index、新興国社債はJPモルガン CEMBI Broad Diversified Index、新興国短期社債はJPモルガン CEMBI Broad Diversified Index Maturity 1-3y、先進国投資適格社債はブルームバーグ・バークレイズ・グローバル・アグリゲート・コーポレート・インデックス、米国国債はFTSE米国国債インデックスを使用。

(出所) Bloomberg, JPモルガン, ICE Data Indices, LLC, Factset

※上記は指数等の過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

### ▶ BDCの収益構造



(ご注意) 逆に金利低下局面では、BDCの収益圧迫要因になります。

※上記はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

■ 景気拡大局面においては、一般的に金利が上昇する傾向にあります。BDCは、固定金利で借入を行い、変動金利で中堅企業等に融資を行うケースが多いため、金利上昇局面においては収益の拡大が期待され、景気拡大局面に強い資産と考えられています。



## （ご参考）短期社債投資の魅力

### ▶ 短期の債券に投資するメリット

中・長期の債券に投資した場合に比べて、リスクを低減することが期待されます。

価格変動リスク

債券価格は金利変動をはじめ様々な要因により変動しますが、一般的に、残存期間が短い債券は、価格変動リスクが小さくなります。

信用リスク

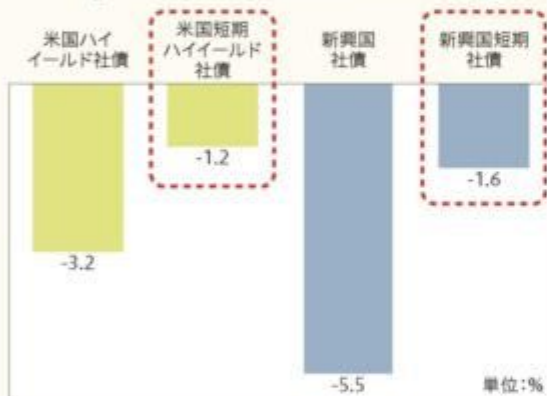
同一発行体が発行する債券に投資した場合、残存期間が短い債券はデフォルトの可能性は低くなります。

安定したパフォーマンスを目指します。

### ▶ 社債市場の近年の短期的下落局面

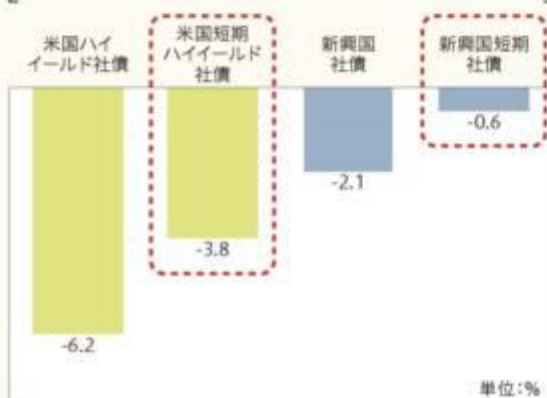
■過去の米国ハイイールド社債、新興国社債の下落局面においては、残存期間の短い債券は残存期間の長い債券よりも価格の下落幅が小さい傾向にありました。

#### 〔局面①：パーナンキショック〕 ＜2013年4月末～2013年6月末＞



■2013年5月に当時のパーナンキFRB議長が量的金融緩和の縮小を行う方針を明らかにしたことから、債券市場では金利が上昇しました。

#### 〔局面②：米国政策金利引き上げ、原油安〕 ＜2015年10月末～2016年1月末＞



■原油価格の下落、2015年12月の米国政策金利の引き上げによりクレジットリスクが高まり、債券市場では金利が上昇しました。

(注1)騰落率は米ドルベース。

(注2)米国ハイイールド社債はICE BofAML US Cash Pay High Yield Index、米国短期ハイイールド社債はICE BofAML 1-3 Year US Cash Pay High Yield Index、新興国社債はJPモルガン CEMBI Broad Diversified Index、新興国短期社債はJPモルガン CEMBI Broad Diversified Index Maturity 1-3yを使用。

(出所) Bloomberg、JPモルガン、ICE Data Indices, LLC

※上記は指数等の過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

## 為替ヘッジについて

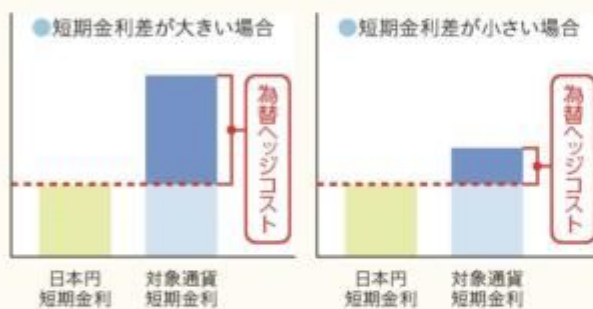


■「為替ヘッジあり」は、実質外貨建資産に対し、原則として対円での為替ヘッジを行うため、為替変動の影響は限定的になると考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。

■対円での為替ヘッジとは、通貨の先渡（フォワード）取引等を利用し、為替変動リスクを低減することです。

■「為替ヘッジなし」の場合、対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を受けます。

### 〔為替ヘッジコストのイメージ〕



(注) 上記は、対円での為替ヘッジコスト(費用)を説明するイメージです。日本円の短期金利が為替ヘッジ対象通貨の短期金利を上回ると、為替ヘッジプレミアム(収益)となります。

■対円での為替ヘッジには、為替ヘッジコストがかかります。例えば、米ドル売り円買いの為替ヘッジを行う場合、日米の短期金利差相当分が為替ヘッジコスト\*となります。米国の金利上昇等により日米の短期金利差が拡大した場合、為替ヘッジコストが増加します。

\*通貨の先渡取引等を利用した実際的为替ヘッジコストは、需給要因等により大きく変動することがあります。

### 〔為替ヘッジコストの推移(年率)〕



■日米の金融政策の方向性の違いから、日米の短期金利差が拡大しており、為替ヘッジコストは増加傾向にあります。

(注1) データは2008年12月末～2018年12月末。

(注2) 為替ヘッジコストは、各月末時点における米ドル・円のスポットレートと1ヵ月物フォワードレートを用いて算出し年率換算。

(出所) 一般社団法人 投資信託協会

※上記は過去のデータを基に委託会社が算出した結果であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。



## 投資対象とする投資信託の実質的な運用会社について

### ▶ BDCの運用会社: アドバイザリー・リサーチ・インク

- アドバイザリー・リサーチ・インクは米国シカゴを拠点とする運用会社です。
- 株式バリュー運用のスペシャリストとして、様々なグローバル株式の運用戦略を提供しています。
- 運用資産残高は約7,304億円(2018年11月末現在、約64億米ドル、1米ドル=113.64円で換算)です。
- 1974年に独立系資産運用会社として設立されました。2010年ニューヨーク上場の総合金融機関パイパー・ジェフリーの傘下となりました(パイパー・ジェフリーの100%子会社)。

#### BDCの運用体制

- 好配当株ポートフォリオ・マネジメント・チームが2008年より運用・調査を行っています。
- 定量的な財務分析により、企業リスクを見極めつつ、ダウンサイドリスクの抑制の観点より銘柄を評価します。
- 企業成長性・株価上昇の潜在性を見極め、銘柄を選定します。

(出所) アドバイザリー・リサーチ・インク

### ▶ 米国短期ハイイールド社債の運用会社: アクサ・インベストメント・マネージャーズ・インク(米国)

- アクサ・インベストメント・マネージャーズ・インク(米国)は、世界最大級の保険・資産運用会社であるアクサ・グループ100%出資の資産運用会社です。
- 世界22カ国で事業を展開し、世界各地に2,376名の従業員を擁し、約97.6兆円(2018年9月末現在、約8,600億米ドル、1米ドル=113.50円で換算)の資産を運用しています。
- 短期ハイイールド社債運用において、業界におけるパイオニアであり、2001年より運用を開始しています。

(出所) アクサ・インベストメント・マネージャーズ・インク(米国)

### ▶ 新興国短期社債の運用会社: アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド

- アッシュモア・グループは、新興国市場に特化した運用会社です。
- 世界11カ国で事業を展開し、約300名の従業員を擁し(うち運用プロフェッショナル92名)、約8.4兆円(2018年12月末現在、約767億米ドル、1米ドル=109.66円で換算)の資産を運用しています。
- 新興国に特化した運用会社としては、業界トップ水準の運用残高を誇ります。

(出所) アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド

## (2) 【投資対象】

### イ 投資対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

(イ) 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項の「特定資産」をいいます。以下同じ。)

1. 有価証券
2. 約束手形
3. 金銭債権

(口) 特定資産以外の資産で、以下に掲げる資産

1. 為替手形

ロ 投資対象とする有価証券

委託会社は、信託金を、主として、投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。））ならびに投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。））または次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

2. 外国または外国の者の発行する証券で、前号の性質を有するもの

3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）

なお、第3号の証券にかかる運用の指図は買い現先取引（売戻条件付の買入れ）および債券貸借取引（現金担保付債券借入れ）に限り行うことができます。

ハ 投資対象とする金融商品

委託会社は、信託金を、上記ロに掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

主要投資対象となる投資信託証券の名称、運用会社、主要運用対象、運用の基本方針に関しましては、上記「(1) 投資方針」の記載をご覧ください。

### (3) 【運用体制】

イ 運用体制

当ファンドの運用は、次のプロセスに基づいて行われます。

(イ) 計画 (Plan)

国内外のエコノミスト、アナリスト、ファンドマネージャーが、マクロ経済環境、市場環境に関する分析・検討を行います。

これを元に、担当運用グループは投資政策委員会にて、運用方針を決定し月次運用計画を策定します。

(ロ) 実行 (Do)

担当運用グループは、月次運用計画に基づき、ファンドのポートフォリオの構築、およびポートフォリオ管理の一環として日々のリスクモニタリングを行います。

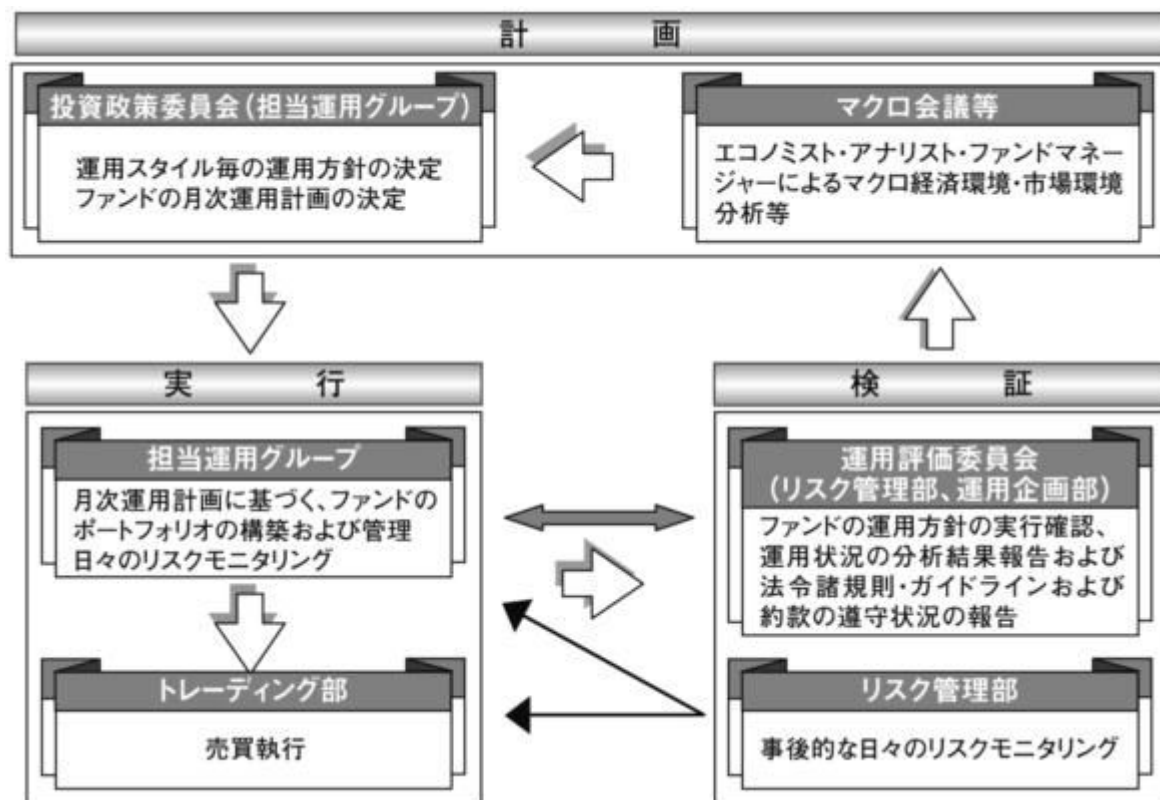
売買執行については、組織的に分離されたトレーディング部が、最良と思われる手法をもって売買を執行します。

(ハ) 検証 (Check)

運用部門から組織的に分離されたリスク管理部が、約款の遵守状況等、ファンドの運営状況を日々モニタリングし、抵触があった場合直ちに担当運用グループへ状況確認がなされます。担当運用グループは対応結果をリスク管理部へ報告します。

運用評価委員会では、ファンドの運用方針の実行状況、運用状況の分析結果を確認します。また、運用の分析、評価結果、運用リスク状況、法令諸規則、運用ガイドライン、約款の遵守状況についても報告されます。

## 【ファンドの運用体制】



リスク管理部は11名程度、運用企画部は10名程度で構成されています。

ファンドの運用体制は、委託会社の組織変更等により、変更されることがあります。

他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）の組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断します。

□ 委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

ファンドの受託会社に対しては、信託財産の日常の管理業務（保管・管理・計算等）を通じて、信託事務の正確性・迅速性の確認を行い、問題がある場合は適宜改善を求めています。

（４）【分配方針】

年４回（原則として毎年３月、６月、９月および12月の15日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- イ 分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- ロ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ハ 留保益の運用については特に制限を定めず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

ファンドは計算期間中の基準価額の変動にかかわらず分配を行う場合があります。分配金額は運用状況等により変動します。分配金額は計算期間中の基準価額の上昇分を上回る場合があります。

## （５）【投資制限】

ファンドの信託約款に基づく投資制限

- イ 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ロ 投資信託証券とコマーシャル・ペーパーおよび短期社債等以外の有価証券への投資は、買い現先取引または債券貸借取引に限りません。
- ハ 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
- ニ 投資信託証券を組み入れる場合において、一般社団法人投資信託協会規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、当該投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ホ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
- ヘ 公社債の借入れの指図
  - (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認められたときは、担保の提供の指図をするものとします。
  - (ロ) 公社債の借入れの指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えない範囲で行うものとします。
  - (ハ) 信託財産の一部解約等の事由により、借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- (二) 借入れにかかる品借料は、信託財産中から支弁します。
- ト 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限  
外貨建有価証券への投資については、日本の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- チ 外国為替予約取引の指図  
委託会社は、信託財産に属する外貨建資産（投資信託証券の信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額を含みます。）について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。
- リ 資金の借入れ
  - (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
  - (ロ) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
  - (ハ) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (二) 借入金の利息は、信託財産中から支弁します。

法令に基づく投資制限

## イ 同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

## ロ デリバティブ取引にかかる投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

## ハ 信用リスク集中回避のための投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）

委託会社は、運用財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。

## 〔参考情報：投資対象とする投資信託の概要〕

## ▶ SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) &lt;適格機関投資家限定&gt;

形態	国内籍投資信託
主要投資対象	米国ハイ・インカムBDCマザーファンド受益証券
運用の基本方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、米国の取引所に上場している株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
ベンチマーク	ありません。
主な投資制限	・原則として株式への直接投資は行いません。 ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
決算日	原則として3月、6月、9月、12月の12日(休業日の場合は翌営業日)
信託報酬	純資産総額に対して年0.76788% (税抜き0.711%)
その他の費用	有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用、監査費用等を負担します。 その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
委託会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。



## ▶ SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用) &lt;適格機関投資家限定&gt;

形態	国内籍投資信託
主要投資対象	米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド受益証券
運用の基本方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、米ドル建ての短期ハイ・イールド社債等に投資を行い、安定的な収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
ベンチマーク	ありません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</li> <li>・同一発行体が発行する社債への実質投資割合は、取得時において、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</li> <li>・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。</li> </ul>
決算日	原則として3月、6月、9月、12月の12日(休業日の場合は翌営業日)
信託報酬	純資産総額に対して年0.594% (税抜き0.55%)
その他の費用	有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用、監査費用等を負担します。 その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
委託会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。



▶ **アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド**  
 (ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス) / (アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)  
 (ヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス) / (アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス)

形態	ガーンジー籍外国投資法人(円建て)
主要投資対象	新興国の社債
運用の基本方針	(各クラス共通) 主として、新興国の社債に投資を行い、償還年限の短い債券に投資することによって価格変動リスクを抑制しながら、相対的に高いインカム収入を享受することを目標とします。 (ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス) (ヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス) 原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。 (アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス) (アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス) 原則として対円での為替ヘッジを行いません。
ベンチマーク	JPモルガン・コーポレート・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・ブロード・ディバースファイド(1-3年)
主な投資制限	●純資産総額の10%を超える借入れは行いません。 ●有価証券の空売りは、純資産総額の範囲内とします。
決算日	原則として7月31日
分配方針	(ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス) (アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス) 毎月10日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行う方針です。 (ヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス) (アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス) 毎年7月10日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行う方針です。
運用報酬	純資産総額に対して年0.72%
管理およびその他の費用	ファンドの管理、保管、設立、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。 その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
投資顧問会社	アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

### 3【投資リスク】

#### イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、投資信託を組み入れることにより運用を行います。当ファンドが組み入れる投資信託は、主として海外の株式および債券を投資対象としており、その価格は、保有する株式および債券の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。当ファンドが組み入れる投資信託の価格の変動により、当ファンドの基準価額も上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、当ファンドは預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。また、当ファンドは、預貯金や保険契約と異なり、預金保険、貯金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。

当ファンドが有するリスク等（他の投資信託の組入れを通じた実質的なリスク等となります。）

のうち主要なものは、以下の通りです。

(イ) 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

(ロ) BDCの価格変動リスク

BDCは、主に中堅企業等（未公開を含む）への融資や当該企業等が発行する株式への投資等の投資事業から得られる利益等を収益源としており、BDCの価格は、投融資先の中堅企業等を取り巻く環境や金利変動等の影響を受けて変動します。BDCは、一般的に固定金利で借入れを行い、変動金利で中堅企業等に融資しますので、金利低下局面においては金利差が縮小しBDCの収益に対してマイナスの影響があると考えられます。また、投融資先の中堅企業等の事業活動や財務状況およびこれらに対する外部的評価の変化等によって、BDCの価格は変動します。ファンドが保有するBDCの価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

特に、BDCが投融資している中堅企業等が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該投融資資金を回収できない可能性があり、ファンドの基準価額が大きく下落する要因となります。

(ハ) 債券市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落（金利が上昇）した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

(ニ) 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。有価証券等の格付けが低い場合は、格付けの高い場合に比べてこうしたリスクがより高いものになると想定されます。

(ホ) 為替変動リスク

(為替ヘッジあり) (為替ヘッジなし)

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

(為替ヘッジあり)

実質外貨建資産に対し原則として対円で為替ヘッジを行うため、為替の変動による影響は限定的と考えられます（ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。）。

(ヘ) カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

(ト) 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは

市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

(チ) 換金制限等に関する留意点

投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

(リ) 収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

ロ 投資リスクの管理体制

リスク管理の実効性を高め、また、コンプライアンスの徹底を図るために、運用部門から独立した組織（リスク管理部およびコンプライアンス部）を設置し、ファンドの投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる確認等を行っています。リスク管理部では、主に投資信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングを行います。また、コンプライアンス部では、主に法令・諸規則等の遵守状況についての確認等を行います。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価委員会、リスク管理委員会およびコンプライアンス委員会への報告が義務づけられています。

## （参考情報）投資リスクの定量的比較

### 〔 ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移 〕

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

#### ■BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)



### 〔 ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較 〕

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



#### ■BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)



※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。



## 各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村證券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

## 4【手数料等及び税金】

## (1)【申込手数料】

原則として、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に、3.24%（税抜き3.0%）を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める申込手数料率を乗じて得た額となります。申込手数料は販売会社によるファンドの募集・販売の取扱い事務等の対価です。

累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は無手数料となります。

申込手数料に関する詳細は、お申込みの販売会社または委託会社にお問い合わせください。委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号	インターネット・ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	<a href="http://www.smam-jp.com">http://www.smam-jp.com</a>

お問い合わせは、原則として営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。

## (2)【換金（解約）手数料】

解約手数料はありません。

## (3)【信託報酬等】

ファンド	純資産総額に年1.1556%（税抜き1.07%）の率を乗じて得た金額が信託報酬として計算され、信託財産の費用として計上されます。 信託報酬は、各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 信託報酬の実質的配分は以下の通りです。 < 信託報酬の配分（税抜き） >		
	支払先	料率	役務の内容
	委託会社	年0.34%	ファンド運用の指図等の対価

	販売会社	年0.70%	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
	受託会社	年0.03%	ファンド財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価
	上記の各支払先の料率には別途消費税等相当額がかかります。		
投資対象とする投資信託	年0.6571728% (税抜き0.61916%) ~ 年0.7387488% (税抜き0.69026%) 程度 (直近の資産配分比率を用い、変動を加味した試算)		
実質的な負担	ファンドの純資産総額に対して年1.8127728% (税抜き1.68916%) ~ 年1.8943488% (税抜き1.76026%) 程度 (直近の資産配分比率を用い、変動を加味した試算) 実質的な負担は、実際の組入状況等により変動します。		

#### (4) 【その他の手数料等】

- イ 信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、原則として、計算期間を通じて毎日、純資産総額に年0.0054% (税抜き0.005%) 以内の率を乗じて得た金額が信託財産の費用として計上され、各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。監査費用は、将来、監査法人との契約等により変更となることがあります。
- ロ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息は、信託財産中から支弁します。
- ハ 有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用、および外国における資産の保管等に要する費用等(それらにかかる消費税等相当額を含みます。)は、信託財産中から支弁するものとします。

上記ロ、ハにかかる費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、実務上、その発生もしくは請求のつど、信託財産の費用として認識され、その時点の信託財産で負担することとなります。したがって、あらかじめ、その金額、上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。

上記(1)~(4)にかかる手数料等および他の投資信託(ファンド)の組入れを通じて間接的に負担する手数料等の合計額、その上限額、計算方法等は、手数料等に保有期間に応じて異なるものが含まれていたり、発生時・請求時に初めて具体的金額を認識するものがあったりすることから、あらかじめ具体的に記載することはできません。

#### (5) 【課税上の取扱い】

- イ 個別元本について
  - (イ) 追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。
  - (ロ) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本の算出が行われることがあります。

(八) 受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。(「元本払戻金(特別分配金)」については、下記の(収益分配金の課税について)を参照。)

ロ 一部解約時および償還時の課税について

個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者については、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

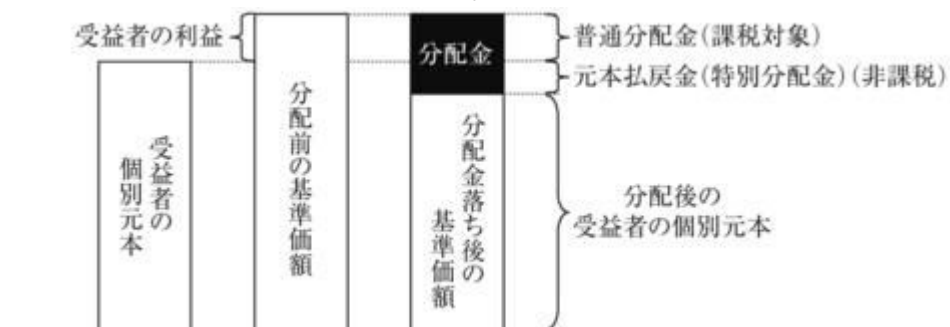
ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



上記、の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

二 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・ 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315% (所得税15.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・ 一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315% (所得税15.315%および地方税5%)の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座(源泉徴収選択口座)の利用も可能です。

また、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、特定公社

債等(公募公社債投資信託を含みます。)の譲渡益および利子等、他の上場株式等にかかる譲渡益および配当等との通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%(所得税のみ)の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA(ニーサ)」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

なお、当ファンドは、配当控除の適用はありません。

少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、年間80万円の範囲で、新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。NISA、ジュニアNISAのご利用には、販売会社での専用口座の開設等、一定の要件があります。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

当ファンドの外貨建資産割合および非株式割合

外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

非株式割合に関する制限はありません(約款規定なし)。

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、2018年12月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

## 5【運用状況】

### (1)【投資状況】

BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)

2018年12月28日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	429,679,321	74.22
投資証券	ガーンジー	117,291,854	20.26
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		31,948,003	5.52
合計(純資産総額)		578,919,178	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計(円)	投資 比率 (%)
----	-----------	------	---------	-----------------



為替予約取引	買建		47,511,750	8.20
	売建		473,013,250	81.70

## BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)

2018年12月28日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資信託受益証券	日本	447,226,790	76.56
投資証券	ガーンジー	110,683,802	18.95
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		26,231,958	4.49
合計(純資産総額)		584,142,550	100.00

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)

## イ 主要投資銘柄

2018年12月28日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資信託受益証券	SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	460,738,268	0.7842	361,310,949	0.7373	339,702,324	58.68
ガーンジー	投資証券	アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)	13,389.57	8,746.24	117,108,462	8,759.93	117,291,854	20.26
日本	投資信託受益証券	SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	99,620,236	0.9350	93,144,920	0.9032	89,976,997	15.54

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

## ロ 種類別の投資比率

2018年12月28日現在

種類	投資比率(%)
----	---------

投資信託受益証券	74.22
投資証券	20.26
合計	94.48

## BDCプラス（為替ヘッジなし／年4回決算型）

## イ 主要投資銘柄

2018年12月28日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資信託受益 証券	SMAM・米国BDCファンド（FOFs用）＜適格機関投資家限定＞	469,436,430	0.7842	368,132,048	0.7373	346,115,479	59.25
ガー ジー	投資証券	アッシュモア・エマージング・マー ケッツ・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファン ド（アンヘッジド・マンスリー・ ディストリビューション・クラス）	10,686.58	10,587.57	113,145,083	10,357.26	110,683,802	18.95
日本	投資信託受益 証券	SMAM・米国短期ハイ・イール ド・ボンド・ファンド（FOFs 用）＜適格機関投資家限定＞	111,947,865	0.9350	104,671,253	0.9032	101,111,311	17.31

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

## ロ 種類別の投資比率

2018年12月28日現在

種類	投資比率（%）
投資信託受益証券	76.56
投資証券	18.95
合計	95.51

## 【投資不動産物件】

## BDCプラス（為替ヘッジあり／年4回決算型）

該当事項はありません。

## BDCプラス（為替ヘッジなし／年4回決算型）

該当事項はありません。

### 【その他投資資産の主要なもの】

#### B D C プラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

2018年12月28日現在

種類	資産の名称	買建 / 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約取引	米ドル	買建	429,000.00	48,316,986	47,511,750	8.20
	米ドル	売建	4,271,000.00	482,793,840	473,013,250	81.70

（注）日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

#### B D C プラス（為替ヘッジなし / 年4回決算型）

該当事項はありません。

### （3）【運用実績】

#### 【純資産の推移】

#### B D C プラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
特定1期 (2017年 6月15日)	2,928,804,619	2,998,657,127	9,886	10,131
特定2期 (2017年12月15日)	2,358,293,882	2,422,958,938	9,230	9,470
特定3期 (2018年 6月15日)	1,068,680,928	1,102,054,696	8,950	9,185
特定4期 (2018年12月17日)	596,193,220	614,565,623	8,313	8,548
2017年12月末日	2,134,180,750		9,216	
2018年 1月末日	1,821,376,744		9,187	
2月末日	1,535,047,253		8,899	
3月末日	1,404,920,681		8,837	
4月末日	1,195,289,674		8,834	
5月末日	1,116,349,347		9,066	
6月末日	915,132,336		8,832	
7月末日	862,014,005		9,107	
8月末日	799,095,939		9,113	
9月末日	750,967,284		8,946	
10月末日	694,423,579		8,561	
11月末日	632,648,797		8,677	

12月末日	578,919,178		8,092	
-------	-------------	--	-------	--

## B D C プラス (為替ヘッジなし / 年4回決算型)

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
特定1期 (2017年 6月15日)	2,544,072,357	2,603,305,299	9,387	9,617
特定2期 (2017年12月15日)	2,189,992,115	2,248,221,737	9,047	9,277
特定3期 (2018年 6月15日)	1,007,482,021	1,039,396,117	8,735	8,960
特定4期 (2018年12月17日)	613,770,868	632,986,206	8,420	8,660
2017年12月末日	2,097,537,358		9,084	
2018年 1月末日	1,661,035,792		8,750	
2月末日	1,463,362,047		8,370	
3月末日	1,295,690,369		8,267	
4月末日	1,102,182,321		8,518	
5月末日	1,034,885,640		8,684	
6月末日	932,728,038		8,626	
7月末日	854,765,463		8,946	
8月末日	818,666,546		8,974	
9月末日	775,021,498		9,003	
10月末日	698,629,967		8,619	
11月末日	653,608,641		8,771	
12月末日	584,142,550		8,033	

## 【分配の推移】

## B D C プラス (為替ヘッジあり / 年4回決算型)

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
特定1期	2016年12月16日～2017年 6月15日	245
特定2期	2017年 6月16日～2017年12月15日	240
特定3期	2017年12月16日～2018年 6月15日	235
特定4期	2018年 6月16日～2018年12月17日	235

## B D C プラス (為替ヘッジなし / 年4回決算型)

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
特定1期	2016年12月16日～2017年 6月15日	230
特定2期	2017年 6月16日～2017年12月15日	230

特定3期	2017年12月16日～2018年 6月15日	225
特定4期	2018年 6月16日～2018年12月17日	240

## 【収益率の推移】

## B D C プラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

	収益率（％）
特定1期	1.3
特定2期	4.2
特定3期	0.5
特定4期	4.5

（注）収益率とは、特定期間末の基準価額（当該特定期間中の分配金累計額を加算した額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ちの額。以下「前特定期間末基準価額」といいます。）を控除した額を前特定期間末基準価額で除したものをいいます。

## B D C プラス（為替ヘッジなし / 年4回決算型）

	収益率（％）
特定1期	3.8
特定2期	1.2
特定3期	1.0
特定4期	0.9

（注）収益率とは、特定期間末の基準価額（当該特定期間中の分配金累計額を加算した額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落ちの額。以下「前特定期間末基準価額」といいます。）を控除した額を前特定期間末基準価額で除したものをいいます。

## （4）【設定及び解約の実績】

## B D C プラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

	設定口数（口）	解約口数（口）
特定1期	3,001,636,367	39,170,885
特定2期	10,082,678	417,404,077
特定3期	7,772,595	1,368,832,182
特定4期	6,241,749	483,113,664

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

## B D C プラス（為替ヘッジなし / 年4回決算型）

	設定口数（口）	解約口数（口）
--	---------	---------

特定1期	2,812,896,581	102,669,965
特定2期	36,255,062	325,729,584
特定3期	32,975,742	1,300,372,035
特定4期	62,082,001	486,473,520

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

## 参考情報

基準日: 2018年12月28日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。  
※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

### 基準価額・純資産の推移

#### ■BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)



※分配金再投資基準価額、基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。  
※分配金再投資基準価額は、上記期間における分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算した価額です。

### 分配の推移

決算期	分配金
2018年12月	115円
2018年 9月	120円
2018年 6月	120円
2018年 3月	115円
2017年12月	125円
設定来累計	955円

※分配金は1万口当たり、税引前です。  
※直近5計算期間を記載しています。

#### ■BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)



※分配金再投資基準価額、基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。  
※分配金再投資基準価額は、上記期間における分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算した価額です。

決算期	分配金
2018年12月	120円
2018年 9月	120円
2018年 6月	115円
2018年 3月	110円
2017年12月	120円
設定来累計	925円

※分配金は1万口当たり、税引前です。  
※直近5計算期間を記載しています。

## 主要な資産の状況

### ■BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)

#### 資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
投資信託受益証券	日本	74.22
投資証券	ガーンジー	20.26
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		5.52
合計(純資産総額)		100.00

#### 主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	投資信託受益証券	SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	58.68
ガーンジー	投資証券	アッシュモア・エマージング・マーケット・ ショート・デュレーション・コーポレート・ デッド・ファンド(ヘッジド・マンスリー・ ディストリビューション・クラス)	20.26
日本	投資信託受益証券	SMAM・米国短期ハイ・イールド・ ボンド・ファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	15.54

### ■BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)

#### 資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
投資信託受益証券	日本	76.56
投資証券	ガーンジー	18.95
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		4.49
合計(純資産総額)		100.00

#### 主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	投資信託受益証券	SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	59.25
ガーンジー	投資証券	アッシュモア・エマージング・マーケット・ ショート・デュレーション・コーポレート・ デッド・ファンド(アンヘッジド・マンスリー・ ディストリビューション・クラス)	18.95
日本	投資信託受益証券	SMAM・米国短期ハイ・イールド・ ボンド・ファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	17.31

※比率は、各ファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入の有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

## ▶投資対象とする投資信託の現況

### ■SMAM・米国BDCファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定>

#### 主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	米国ハイ・インカムBDCマザーファンド	98.42

「米国ハイ・インカムBDCマザーファンド」が投資している有価証券の上位10銘柄は以下の通りです。

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
アメリカ	株式	ARES CAPITAL CORP	各種金融	9.14
アメリカ	株式	FS KKR CAPITAL CORP	各種金融	8.85
アメリカ	株式	MAIN STREET CAPITAL CORP	各種金融	8.66
アメリカ	株式	TPG SPECIALTY LENDING INC	各種金融	7.37
アメリカ	株式	GOLUB CAPITAL BDC INC	各種金融	6.89
アメリカ	株式	HERCULES CAPITAL, INC.	各種金融	6.03
アメリカ	株式	NEW MOUNTAIN FINANCE CORP	各種金融	5.97
アメリカ	株式	APOLLO INVESTMENT CORP	各種金融	5.95
アメリカ	株式	BLACKROCK TCP CAPITAL CORP	各種金融	5.83
アメリカ	株式	SOLAR CAPITAL LTD	各種金融	5.82

※比率は、「SMAM・米国BDCファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定>」、「米国ハイ・インカムBDCマザーファンド」のそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入の有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

※BDCは株式として表示しています。



## ■SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用)〈適格機関投資家限定〉

### 主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド	99.03

「米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド」が投資している有価証券の上位10銘柄は以下の通りです。

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
アメリカ	社債券	HRG GROUP INC 7.75	7.750	2022/01/15	1.23
アメリカ	社債券	DIAMOND 1 FIN/DI 5.875	5.875	2021/06/15	1.22
ケイマン諸島	社債券	PARK AEROSPACE 3.625	3.625	2021/03/15	1.19
アメリカ	社債券	APX GROUP INC 8.875	8.875	2022/12/01	1.15
アメリカ	社債券	SCIENTIFIC GAMES 10	10.000	2022/12/01	1.12
アメリカ	社債券	TRANSDIGM INC 5.5	5.500	2020/10/15	1.11
アメリカ	社債券	LEVEL 3 COMM INC 5.75	5.750	2022/12/01	1.09
アメリカ	社債券	TRANSDIGM INC 6	6.000	2022/07/15	1.08
アメリカ	社債券	SOLERA LLC / FIN 10.5	10.500	2024/03/01	1.06
アメリカ	社債券	PRESTIGE BRANDS 5.375	5.375	2021/12/15	1.03

※比率は、「SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用)〈適格機関投資家限定〉」、「米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド」のそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入る有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

## ■アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド

(ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)

(アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)

(ヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス)

(アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス)

当該各投資信託をシェアクラスとして含む「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド」の主要投資銘柄(上位10銘柄)は以下の通りです。

### 主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
ルクセンブルグ	社債券	CSN RESOURCES SA 6.5% 21/07/2020 (REGS)	6.500	2020/07/21	8.28
ケイマン諸島	社債券	EP PETROECUADOR VIA NOBLE FRN 24/09/2019 (REGS)	8.016	2019/09/24	7.13
バーミューダ諸島	社債券	DIGICEL LTD 6% 15/04/2021 (REGS)	6.000	2021/04/15	6.74
エクアドル	国債証券	REPUBLIC OF ECUADOR 10.5% 24/03/2020 (REGS)	10.500	2020/03/24	4.66
ケイマン諸島	社債券	CSN ISLANDS XI CORP 6.875% 21/09/2019 (REGS)	6.875	2019/09/21	4.27
トルコ	社債券	KOC HOLDINGS AS 3.5% 24/04/2020 (REGS)	3.500	2020/04/24	4.07
レバノン	国債証券	LEBANESE REPUBLIC 6.375% 09/03/2020	6.375	2020/03/09	3.56
トルコ	社債券	TURKIYE IS BANKASI 5.375% 06/10/2021 (REGS)	5.375	2021/10/06	3.46
アルゼンチン	社債券	YPF SOCIEDAD ANONIMA 8.5% 23/03/2021 (REGS)	8.500	2021/03/23	3.22
ケイマン諸島	社債券	YUZHOU PROPERTIES CO LTD 6.375% 06/03/2021 (REGS)	6.375	2021/03/06	3.04

※国・地域は、発行国基準にて記載しています。

※償還期限は、発行時償還日を表示しています。

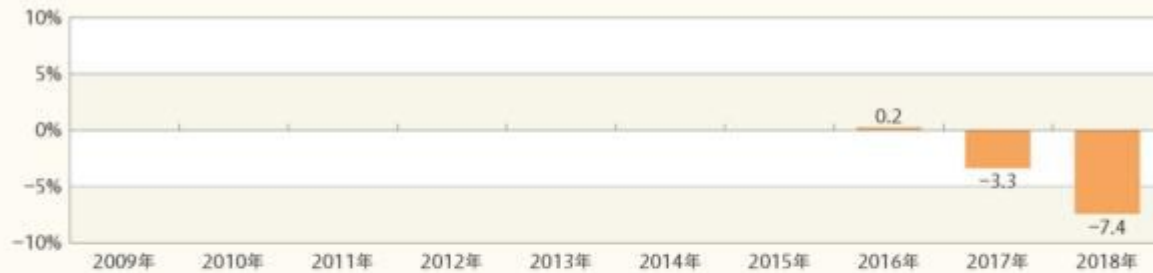
※比率は、アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンドの純資産総額に対する時価の比率です。

※アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッドから入手した情報を基に委託会社が作成しています。

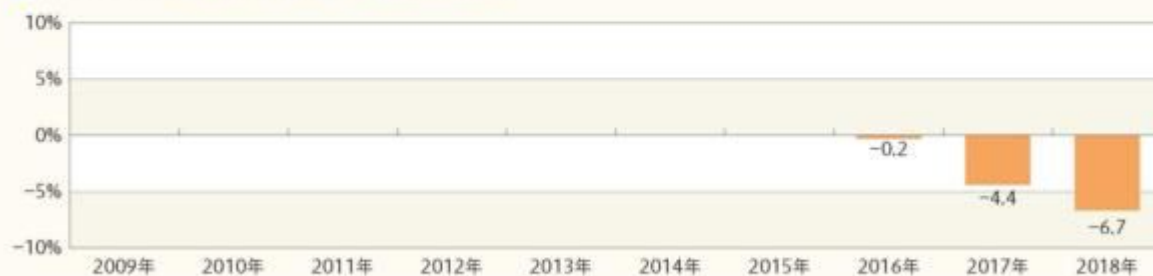


## 年間収益率の推移(暦年ベース)

### ■BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)



### ■BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)



※ファンドの収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。したがって、ファンドの収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

※2016年のファンドの収益率は、ファンドの設定日(2016年12月16日)から年末までの騰落率を表示しています。

※ファンドにはベンチマークはありません。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込(販売)手続等】

#### イ 申込方法

(イ) ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社取引口座を開設の上、当ファンドの取得申込みを行っていただきます。

当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」の2つの申込方法がありますが、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

販売会社によっては、「スイッチング」(ある投資信託の換金による手取額をもって、他の投資信託を買い付けること)による当ファンドの取得申込みを取り扱う場合があります。

お申込みの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

(ロ) 原則として、販売会社の営業日の午後3時までに取得申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。

なお、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受け付けを中止させていただく場合、既に受け付けた取得申込みを取り消させていただく場合があります。

(ハ) 当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

ファンドのお買付けに関しましては、クーリング・オフ制度の適用はありません。

## (二) 申込不可日

上記にかかわらず、取得申込日がニューヨークの取引所または銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、当ファンドの取得申込みはできません（また、該当日には、解約請求のお申込みもできません。）。

## ロ 申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

## ハ 申込手数料

原則として、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に、3.24%（税抜き3.0%）を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める申込手数料率を乗じて得た額となります。

累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は無手数料となります。

申込手数料に関する詳細は、お申込みの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

## ニ 申込単位

お申込単位の詳細は、取扱いの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

## ホ 照会先

申込手数料、申込単位の詳細についての委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号	インターネット・ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	http://www.smam-jp.com

お問い合わせは、原則として営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。

## ヘ 申込取扱場所・払込取扱場所

販売会社において申込み・払込みを取り扱います。

## ト 払込期日

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に申込手数料および当該手数料にかかる消費税等相当額を加算した額を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

## 2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約請求（一部解約の実行請求）により換金することができます。

お買付けの販売会社にお申し出ください。

ただし、ニューヨークの取引所または銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、解約請求の受け付けは行いません。

解約請求のお申込みに関しては、原則として午後3時までに解約請求のお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるファンドの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、解約請求受付日から起算して8営業日目からお支払いします。

一部解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。

一部解約価額は、委託会社の営業日において日々算出されますので、委託会社（電話：0120-88-2976）にお問い合わせいただければ、いつでもお知らせします。

委託会社は、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、および既に受け付けた一部解約の実行請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

##### イ 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産(借入れ公社債を除きます。)を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(「純資産総額」といいます。)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます(基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。)

なお、外貨建資産の円換算については、原則として日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算するものとし、予約為替の評価は、原則として日本における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

##### ロ 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、「(為替ヘッジあり)」は「BDC+有4」、「(為替ヘッジなし)」は「BDC+無4」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号	インターネット・ ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	<a href="http://www.smam-jp.com">http://www.smam-jp.com</a>

お問い合わせは、原則として営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。

#### (2)【保管】

ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

#### (3)【信託期間】

2016年12月16日から2026年12月15日まで、もしくは下記「(5)その他 イ 信託の終了」に記載された各事由が生じた場合における信託終了の日までとなります。

#### (4)【計算期間】

毎年3月16日から6月15日まで、6月16日から9月15日まで、9月16日から12月15日まで、および12月16日から翌年3月15日までとすることを原則としますが、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。なお、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了

日とします。

## （５）【その他】

### イ 信託の終了

#### （イ）信託契約の解約

- a. 委託会社は、当ファンドの信託契約を解約することが受益者にとって有利であると認めるとき、各ファンドにつき残存口数が10億口を下回ることとなったとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、上記aの事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、当ファンドの知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- c. 書面決議において、受益者（委託会社等を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. 書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 上記b～dまでの取扱いは、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、当ファンドのすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記b～dまでの取扱いを行うことが困難な場合も同様とします。

#### （ロ）信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁より当ファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### （ハ）委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が、監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が当ファンドに関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、当ファンドは、その委託会社と受託会社との間において存続します。

#### （ニ）受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- a. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたこと、その他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申し立てることができます。
- b. 上記により受託会社が辞任し、または解任された場合は、委託会社は新受託会社を選任します。
- c. 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。

### ロ 収益分配金、償還金の支払い

#### （イ）収益分配金

- a. 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- b. 分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかか

る決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に支払われます。

ただし、分配金自動再投資コースにかかる収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づいて、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

#### (ロ) 償還金

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に支払われます。

### 八 信託約款の変更等

(イ) 委託会社は、当ファンドの信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、監督官庁より変更の命令を受けたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託約款を変更すること、または当ファンドと他のファンドとの併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨および内容を監督官庁に届け出ます。

(ロ) 委託会社は、上記(イ)の事項（変更についてはその内容が重大なものに該当する場合に限り、併合にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、合わせて「重大な信託約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、当ファンドの知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

(ハ) 上記(ロ)の書面決議において、受益者（委託会社等を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

(ニ) 書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います（書面決議は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。）。

(ホ) 上記(ロ)から(ニ)までの取扱いは、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、当ファンドのすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

(ヘ) 上記にかかわらず、当ファンドと他のファンドとの併合の場合は、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあつても、相手方となる他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、併合を行うことはできません。

### 二 反対受益者の受益権買取請求の不適用

当ファンドは、受益者が一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な信託約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

### ホ 販売会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問わず、ファンドの募集・販売の取扱い、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を規定するもの）は、期間満了の3ヵ月前に当事者のいずれから、何らの意思表示もない場合は、自動的に1年間更新されます。販売契約の内容は、必要に応じて、委託



会社と販売会社との合意により変更されることがあります。

- ヘ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い  
委託会社の事業の全部または一部の譲渡、もしくは分割承継により、当ファンドに関する事業が譲渡・承継されることがあります。
- ト 公告  
委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。  
<http://www.smam-jp.com>  
なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。
- チ 運用にかかる報告書の開示方法  
委託会社は6ヵ月（原則として6月、12月の各決算時までの期間）毎に、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に従い、期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書（全体版）および運用報告書（全体版）の記載事項のうち重要なものを記載した交付運用報告書を作成します。  
交付運用報告書は、原則として、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。なお、運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページで閲覧できます。

#### 4【受益者の権利等】

委託会社の指図に基づく行為によりファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドの受益権は、信託の日時を異にすることにより差異が生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次の通りです。

- イ 分配金請求権  
受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。  
収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払われます。  
ただし、分配金自動再投資コースをお申込みの場合の収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づき、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。  
収益分配金は、受益者が、その支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。
- ロ 償還金請求権  
受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。  
償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払われます。  
償還金は、受益者がその支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。
- ハ 一部解約実行請求権  
受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。詳細は、前記「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」の記載をご参照ください。

## 二 書面決議における議決権

委託会社が、当ファンドの解約（監督官庁の命令による解約等の場合を除きます。）または、重大な信託約款の変更等を行おうとする場合において、受益者は、それぞれの書面決議手続きにおいて、受益権の口数に応じて議決権を有しこれを行行使することができます。

## ホ 帳簿閲覧・謄写請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

- 1 . 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 . 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 3 . 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、特定4期(平成30年 6月16日から平成30年12月17日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

#### 1【財務諸表】

## 【BDCプラス（為替ヘッジあり／年4回決算型）】

## （１）【貸借対照表】

（単位：円）

	特定3期 （平成30年 6月15日現在）	特定4期 （平成30年12月17日現在）
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
金銭信託	-	33,150,632
コール・ローン	61,371,431	-
投資信託受益証券	922,546,633	454,455,869
投資証券	101,647,175	117,108,462
派生商品評価勘定	209,598	-
未収入金	49,377,080	10,119,067
未収配当金	523,836	602,531
流動資産合計	1,135,675,753	615,436,561
<b>資産合計</b>	<b>1,135,675,753</b>	<b>615,436,561</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
派生商品評価勘定	8,033,685	2,781,912
未払金	9,872,038	122,057
未払収益分配金	14,329,013	8,247,944
未払解約金	31,088,576	6,133,361
未払受託者報酬	102,456	54,635
未払委託者報酬	3,551,756	1,894,068
未払利息	168	-
その他未払費用	17,133	9,364
流動負債合計	66,994,825	19,243,341
<b>負債合計</b>	<b>66,994,825</b>	<b>19,243,341</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>元本等</b>		
元本	1,194,084,496	717,212,581
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	125,403,568	121,019,361
元本等合計	1,068,680,928	596,193,220
純資産合計	1,068,680,928	596,193,220
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,135,675,753</b>	<b>615,436,561</b>

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	特定3期		特定4期	
	自	平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日	自	平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
営業収益				
受取配当金		47,423,099		25,101,613
有価証券売買等損益		85,404,018		26,259,477
為替差損益		24,947,179		23,165,342
営業収益合計		13,033,740		24,323,206
営業費用				
支払利息		30,987		13,968
受託者報酬		252,426		128,522
委託者報酬		8,750,530		4,455,512
その他費用		60,663		26,883
営業費用合計		9,094,606		4,624,885
営業利益又は営業損失（ ）		22,128,346		28,948,091
経常利益又は経常損失（ ）		22,128,346		28,948,091
当期純利益又は当期純損失（ ）		22,128,346		28,948,091
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		5,577,834		1,403,505
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		196,850,201		125,403,568
剰余金増加額又は欠損金減少額		122,147,405		50,880,759
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		122,147,405		50,880,759
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		776,492		579,563
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		776,492		579,563
分配金		33,373,768		18,372,403
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		125,403,568		121,019,361



## ( 3 ) 【注記表】

## ( 重要な会計方針の注記 )

項 目	特定4期	
	自 平成30年 6月16日	至 平成30年12月17日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券、投資証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。  (1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。  (2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。  (3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。	
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金の計上基準 受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。	
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当特定期間は当期末が休日のため、平成30年 6月16日から平成30年12月17日までとなっております。	

## ( 貸借対照表に関する注記 )

項 目	特定3期		特定4期	
	( 平成30年 6月15日現在 )		( 平成30年12月17日現在 )	
1. 当特定期間の末日における受益権の総数		1,194,084,496口		717,212,581口
2. 「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の6第10号に規定する額	元本の欠損	125,403,568円	元本の欠損	121,019,361円
3. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 (10,000口当たりの純資産額)	0.8950円 8,950円)	1口当たり純資産額 (10,000口当たりの純資産額)	0.8313円 8,313円)

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

項目	特定3期	特定4期
	自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日	自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
分配金の計算過程	<p>（自 平成29年12月16日 至 平成30年 3月15日）</p> <p>第5計算期間末における費用控除後の配当等収益（15,534,004円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（2,361,643円）、および分配準備積立金（23,066,583円）より、分配対象収益は40,962,230円（1万口当たり247.34円）であり、うち19,044,755円（1万口当たり115円）を分配金額としております。</p> <p>（自 平成30年 3月16日 至 平成30年 6月15日）</p> <p>第6計算期間末における費用控除後の配当等収益（22,302,119円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（1,752,038円）、および分配準備積立金（14,051,319円）より、分配対象収益は38,105,476円（1万口当たり319.11円）であり、うち14,329,013円（1万口当たり120円）を分配金額としております。</p>	<p>（自 平成30年 6月16日 至 平成30年 9月18日）</p> <p>第7計算期間末における費用控除後の配当等収益（12,062,134円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（1,336,707円）、および分配準備積立金（15,463,034円）より、分配対象収益は28,861,875円（1万口当たり342.07円）であり、うち10,124,459円（1万口当たり120円）を分配金額としております。</p> <p>（自 平成30年 9月19日 至 平成30年12月17日）</p> <p>第8計算期間末における費用控除後の配当等収益（8,329,370円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（1,142,973円）、および分配準備積立金（14,785,211円）より、分配対象収益は24,257,554円（1万口当たり338.20円）であり、うち8,247,944円（1万口当たり115円）を分配金額としております。</p>

## （金融商品に関する注記）

## . 金融商品の状況に関する事項

項目	特定4期
	自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当特定期間については、投資信託受益証券、投資証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。当特定期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p>

	<p>(2)金融商品に係るリスク</p> <p>有価証券およびデリバティブ取引等</p> <p>当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3.金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用グループは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用グループの対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する部会にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

#### ・金融商品の時価等に関する事項

項目	特定4期 (平成30年12月17日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（投資信託受益証券、投資証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

特定3期（自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	47,679,849円
投資証券	3,287,671円
合計	44,392,178円

特定4期（自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	31,475,896円
投資証券	1,002,741円
合計	32,478,637円

## （デリバティブ取引に関する注記）

特定3期（平成30年 6月15日現在）

## ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（単位：円）

区 分	種 類	契 約 額 等	うち1年超	時 価	評 価 損 益
市場取引以外 の取引	為替予約取引				
	買建	59,737,602	-	59,947,200	209,598
	米ドル	59,737,602	-	59,947,200	209,598
	売建	971,987,115	-	980,020,800	8,033,685
	米ドル	971,987,115	-	980,020,800	8,033,685
	合計	1,031,724,717	-	1,039,968,000	7,824,087

特定4期（平成30年12月17日現在）

## ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（単位：円）

区 分	種 類	契 約 額 等	うち1年超	時 価	評 価 損 益
市場取引以外の 取引	為替予約取引 買建	26,708,828	-	26,677,440	31,388
	米ドル	26,708,828	-	26,677,440	31,388
	売建	480,043,316	-	482,793,840	2,750,524
	米ドル	480,043,316	-	482,793,840	2,750,524
合計		506,752,144	-	509,471,280	2,781,912

## (注) 1. 時価の算定方法

## (1) 為替予約取引の時価の算定方法について

1) 特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
- ・ 特定期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いています。

2) 特定期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、特定期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

特定4期 自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日	
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。	

## (その他の注記)

項 目	特定3期 (平成30年 6月15日現在)	特定4期 (平成30年12月17日現在)
	期首元本額	2,555,144,083円
期中追加設定元本額	7,772,595円	6,241,749円
期中一部解約元本額	1,368,832,182円	483,113,664円

## (4) 【附属明細表】

## 有価証券明細表

## (a) 株式

該当事項はありません。

## (b) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	460,738,268	361,310,949	
	SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ ファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定 >	99,620,236	93,144,920	
投資信託受益証券合計		560,358,504	454,455,869	
投資証券	アッシュモア・エマージング・マーケット・ ショート・デュレーション・コーポレート・ デッド・ファンド(ヘッジド・マンスリー・ ディストリビューション・クラス)	13,389.57	117,108,462	
投資証券合計		13,389.57	117,108,462	
合計			571,564,331	

## デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。



## 【BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)】

## (1)【貸借対照表】

(単位:円)

	特定3期 (平成30年6月15日現在)	特定4期 (平成30年12月17日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
金銭信託	-	32,853,443
コール・ローン	57,481,137	-
投資信託受益証券	864,871,925	472,803,301
投資証券	95,294,065	113,145,083
未収入金	27,170,000	11,940,000
未収配当金	424,466	483,631
流動資産合計	1,045,241,593	631,225,458
資産合計	1,045,241,593	631,225,458
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	13,263,591	8,747,571
未払解約金	21,116,086	6,695,035
未払受託者報酬	94,318	56,140
未払委託者報酬	3,269,642	1,946,199
未払利息	157	-
その他未払費用	15,778	9,645
流動負債合計	37,759,572	17,454,590
負債合計	37,759,572	17,454,590
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1,153,355,801	728,964,282
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	145,873,780	115,193,414
元本等合計	1,007,482,021	613,770,868
純資産合計	1,007,482,021	613,770,868
負債純資産合計	1,045,241,593	631,225,458

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	特定3期		特定4期	
	自 至	平成29年12月16日 平成30年 6月15日	自 至	平成30年 6月16日 平成30年12月17日
営業収益				
受取配当金		43,617,985		25,449,237
有価証券売買等損益		86,347,327		21,337,606
営業収益合計		42,729,342		4,111,631
営業費用				
支払利息		29,325		13,393
受託者報酬		236,267		129,971
委託者報酬		8,190,415		4,505,621
その他費用		56,284		27,806
営業費用合計		8,512,291		4,676,791
営業利益又は営業損失（ ）		51,241,633		565,160
経常利益又は経常損失（ ）		51,241,633		565,160
当期純利益又は当期純損失（ ）		51,241,633		565,160
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		6,718,665		2,039,557
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		230,759,979		145,873,780
剰余金増加額又は欠損金減少額		166,475,061		59,469,792
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		166,475,061		59,469,792
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
剰余金減少額又は欠損金増加額		5,151,798		6,969,371
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		5,151,798		6,969,371
分配金		31,914,096		19,215,338
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		145,873,780		115,193,414

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針の注記)

項目	特定4期	
	自 平成30年 6月16日	至 平成30年12月17日
1.有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券、投資証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2.収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>	
3.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い</p> <p>当特定期間は当期末が休日のため、平成30年 6月16日から平成30年12月17日までとなっております。</p>	

## (貸借対照表に関する注記)

項目	特定3期		特定4期	
	(平成30年 6月15日現在)		(平成30年12月17日現在)	
1. 当特定期間の末日における受益権の総数		1,153,355,801口		728,964,282口
2. 「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の6第10号に規定する額	元本の欠損	145,873,780円	元本の欠損	115,193,414円
3. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額	0.8735円	1口当たり純資産額	0.8420円
	(10,000口当たりの純資産額)	8,735円)	(10,000口当たりの純資産額)	8,420円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	特定3期	特定4期
	自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日	自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
分配金の計算過程	<p>（自 平成29年12月16日 至 平成30年 3月15日）</p> <p>第5計算期間末における費用控除後の配当等収益（15,130,208円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（4,037,848円）、および分配準備積立金（25,410,166円）より、分配対象収益は44,578,222円（1万口当たり262.91円）であり、うち18,650,505円（1万口当たり110円）を分配金額としております。</p> <p>（自 平成30年 3月16日 至 平成30年 6月15日）</p> <p>第6計算期間末における費用控除後の配当等収益（21,771,756円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（2,754,897円）、および分配準備積立金（14,882,328円）より、分配対象収益は39,408,981円（1万口当たり341.67円）であり、うち13,263,591円（1万口当たり115円）を分配金額としております。</p>	<p>（自 平成30年 6月16日 至 平成30年 9月18日）</p> <p>第7計算期間末における費用控除後の配当等収益（13,161,854円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（3,157,170円）、および分配準備積立金（16,655,079円）より、分配対象収益は32,974,103円（1万口当たり377.99円）であり、うち10,467,767円（1万口当たり120円）を分配金額としております。</p> <p>（自 平成30年 9月19日 至 平成30年12月17日）</p> <p>第8計算期間末における費用控除後の配当等収益（8,304,635円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（2,791,792円）、および分配準備積立金（16,016,060円）より、分配対象収益は27,112,487円（1万口当たり371.91円）であり、うち8,747,571円（1万口当たり120円）を分配金額としております。</p>

## （金融商品に関する注記）

## ．金融商品の状況に関する事項

項目	特定4期
	自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当特定期間については、投資信託受益証券、投資証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいておりません。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク</p>

項 目	特定4期 自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
	有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用グループは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用グループの対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する部会にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項 目	特定4期 （平成30年12月17日現在）
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。

項 目	特定4期 (平成30年12月17日現在)
2.時価の算定方法	(1) 有価証券（投資信託受益証券、投資証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

特定3期（自 平成29年12月16日 至 平成30年 6月15日）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	44,070,491円
投資証券	1,464,356円
合計	45,534,847円

特定4期（自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	32,080,569円
投資証券	1,302,546円
合計	30,778,023円

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

特定4期 自 平成30年 6月16日 至 平成30年12月17日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（その他の注記）



項目	特定3期 (平成30年 6月15日現在)	特定4期 (平成30年12月17日現在)
期首元本額	2,420,752,094円	1,153,355,801円
期中追加設定元本額	32,975,742円	62,082,001円
期中一部解約元本額	1,300,372,035円	486,473,520円

## (4) 【附属明細表】

## 有価証券明細表

## (a) 株式

該当事項はありません。

## (b) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定>	469,436,430	368,132,048	
	SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ ファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定 >	111,947,865	104,671,253	
投資信託受益証券合計		581,384,295	472,803,301	
投資証券	アッシュモア・エマージング・マーケット・ ショート・デュレーション・コーポレート・ デッド・ファンド(アンヘッジド・マンス リー・ディストリビューション・クラス)	10,686.58	113,145,083	
投資証券合計		10,686.58	113,145,083	
合計			585,948,384	

## デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## (参考)

BDCプラス(為替ヘッジあり/年4回決算型)は、「SMAM・米国BDCファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定>」、「SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定>」、および「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)」投資信託受益証券を、BDCプラス(為替ヘッジなし/年4回決算型)は、「SMAM・米国BDCファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定>」、「SMAM・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド(FOFs用)<適格機関投資家限定>」、および「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)」投資信託受益証券をそれぞれ主要投資対象としており、各貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」および

「投資証券」はすべて各該当ファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外です。

SMAM・米国BDCファンド（FOFs用）＜適格機関投資家限定＞

貸借対照表

	（単位：円）	
	（平成30年 6月15日現在）	（平成30年12月17日現在）
<b>資産の部</b>		
流動資産		
金銭信託	16,320,625	21,627,610
コール・ローン	19,349,154	-
親投資信託受益証券	2,499,409,416	1,359,983,682
未収入金	86,520,000	75,870,000
流動資産合計	2,621,599,195	1,457,481,292
資産合計	2,621,599,195	1,457,481,292
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	87,379,998	76,619,997
未払受託者報酬	6,782	6,337
未払委託者報酬	153,939	143,873
未払利息	55	-
その他未払費用	1,459	1,587
流動負債合計	87,542,233	76,771,794
負債合計	87,542,233	76,771,794
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	3,027,558,029	1,760,721,462
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	493,501,067	380,011,964
元本等合計	2,534,056,962	1,380,709,498
純資産合計	2,534,056,962	1,380,709,498
負債純資産合計	2,621,599,195	1,457,481,292

注記表

（重要な会計方針の注記）

項 目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
-----	--------------------------------

有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
-----------------	---

## （貸借対照表に関する注記）

項目	（平成30年 6月15日現在）	（平成30年12月17日現在）
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	3,027,558,029口	1,760,721,462口
2. 「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の6第10号に規定する額	元本の欠損 493,501,067円	元本の欠損 380,011,964円
3. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 0.8370円 (10,000口当たりの純資産額 8,370円)	1口当たり純資産額 0.7842円 (10,000口当たりの純資産額 7,842円)

## （金融商品に関する注記）

## . 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係る	(1) 金融商品の内容

リスク	<p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3.金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用グループは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用グループの対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する部会にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項 目	(平成30年12月17日現在)
-----	-----------------

1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

## (その他の注記)

項 目	(平成30年 6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
期首元本額	3,082,474,788円	1,821,128,166円
期中追加設定元本額	-円	-円
期中一部解約元本額	54,916,759円	60,406,704円

## 附属明細表

## 有価証券明細表

## (a)株式

該当事項はありません。

## (b) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	米国ハイ・インカムBDCマザーファンド	1,115,106,332	1,359,983,682	
合計		1,115,106,332	1,359,983,682	

## デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## (参考)

SMAM・米国BDCファンド(FOFs用) <適格機関投資家限定> は、「米国ハイ・インカムBDCマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

## 米国ハイ・インカムBDCマザーファンド

## 貸借対照表

(単位：円)

	(平成30年 6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	186,684,735	110,468,522
金銭信託	52,266,298	117,272,027
コール・ローン	61,965,067	-
株式	6,892,614,489	4,752,516,374
派生商品評価勘定	-	33,304
未収入金	57,598,439	94,276,191
未収配当金	66,927,637	58,085,515
流動資産合計	7,318,056,665	5,132,651,933
資産合計	7,318,056,665	5,132,651,933
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	161,125	2,981
未払解約金	88,245,994	96,003,281
未払利息	178	-
その他未払費用	219	1,414
流動負債合計	88,407,516	96,007,676
負債合計	88,407,516	96,007,676
純資産の部		



	（平成30年 6月15日現在）	（平成30年12月17日現在）
元本等		
元本	5,802,876,109	4,129,767,964
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	1,426,773,040	906,876,293
元本等合計	7,229,649,149	5,036,644,257
純資産合計	7,229,649,149	5,036,644,257
負債純資産合計	7,318,056,665	5,132,651,933

## 注記表

（重要な会計方針の注記）

項目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理</p> <p>「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

項目	（平成30年 6月15日現在）	（平成30年12月17日現在）
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	5,802,876,109口	4,129,767,964口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.2459円 (10,000口当たりの純資産額 12,459円)	1口当たり純資産額 1.2196円 (10,000口当たりの純資産額 12,196円)

## （金融商品に関する注記）

## ・金融商品の状況に関する事項

項 目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用グループは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用グループの対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する部会にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。
---------------------------	--

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成30年12月17日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

（平成30年 6月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（単位：円）

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建	47,000,000	-	47,161,125	161,125
	米ドル	47,000,000	-	47,161,125	161,125
合計		47,000,000	-	47,161,125	161,125

（平成30年12月17日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（単位：円）

区分	種類	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の	為替予約取引				

取引	売建	69,000,000	-	68,969,677	30,323
	米ドル	69,000,000	-	68,969,677	30,323
	合計	69,000,000	-	68,969,677	30,323

## (注) 1. 時価の算定方法

## (1) 為替予約取引の時価の算定方法について

1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いています。

2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

自 平成30年12月13日

至 平成30年12月17日

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

## (その他の注記)

(平成30年 6月15日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	5,840,807,823円
同期中における追加設定元本額	-円
同期中における一部解約元本額	37,931,714円
平成30年 6月15日現在における元本の内訳	
米国ハイ・インカムBDCファンド(毎月決算型)	3,412,611,156円
米国ハイ・インカムBDCファンド(年1回決算型)	384,157,387円
S M A M・米国BDCファンド(F O F s用) <適格機関投資家限定>	2,006,107,566円
合計	5,802,876,109円

(平成30年12月17日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	4,184,422,619円
同期中における追加設定元本額	-円
同期中における一部解約元本額	54,654,655円
平成30年12月17日現在における元本の内訳	
米国ハイ・インカムBDCファンド(毎月決算型)	2,701,483,632円
米国ハイ・インカムBDCファンド(年1回決算型)	313,178,000円
S M A M ・米国BDCファンド(F O F s用) <適格機関投資家限定>	1,115,106,332円
合計	4,129,767,964円

## 附属明細表

## 有価証券明細表

## (a) 株式

通貨	銘柄	株数	評価額		備考
			単価	金額	
米ドル	APOLLO INVESTMENT CORP	196,963	14.24	2,804,753.12	
	ARES CAPITAL CORP	256,140	16.02	4,103,362.80	
	BLACKROCK TCP CAPITAL CORP	182,586	13.85	2,528,816.10	
	CAPITAL SOUTHWEST CORPORATION	45,159	20.08	906,792.72	
	CORPORATE CAPITAL TRUST INC	142,298	13.38	1,903,947.24	
	FIDUS INVESTMENT CORP	95,978	13.39	1,285,145.42	
	FS INVESTMENT CORP	452,277	5.67	2,564,410.59	
	GLADSTONE INVESTMENT CORPORATION	46,448	9.93	461,228.64	
	GOLDMAN SACHS BDC INC	56,534	19.38	1,095,628.92	
	GOLUB CAPITAL BDC INC	173,307	17.31	2,999,944.17	
	HERCULES CAPITAL, INC.	229,776	11.36	2,610,255.36	
	MAIN STREET CAPITAL CORP	104,787	37.47	3,926,368.89	
	MONROE CAPITAL CORP	43,091	10.31	444,268.21	
	NEW MOUNTAIN FINANCE CORP	201,552	12.84	2,587,927.68	
	NEWTEK BUSINESS SERVICES CORP	41,773	19.33	807,472.09	
	PENNANTPARK FLOATING RATE CAPITAL LTD	109,236	12.08	1,319,570.88	
	PROSPECT CAPITAL CORP	206,098	6.37	1,312,844.26	
	SOLAR CAPITAL LTD	127,240	20.38	2,593,151.20	
	STELLUS CAPITAL INVESTMENT CORP	32,728	13.42	439,209.76	
	TCG BDC INC	109,138	13.84	1,510,469.92	
TPG SPECIALTY LENDING INC	168,617	19.23	3,242,504.91		
WHITEHORSE FINANCE INC	31,436	13.85	435,388.60		
	米ドル 小計	3,053,162		41,883,461.48 (4,752,516,374)	

合 計	3,053,162		4,752,516,374 (4,752,516,374)
-----	-----------	--	----------------------------------

(注) 金額欄の( )内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数	組入株式時価比率	合計金額に対する比率
米ドル	株式 22銘柄	94.4%	100.0%

#### (b) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

#### デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表（デリバティブ取引に関する注記）」に記載しております。

#### S M A M ・ 米 国 短 期 ハ イ ・ イ ー ル ド ・ ボ ン ド ・ フ ァ ン ド ( F O F s 用 ) < 適 格 機 関 投 資 家 限 定 >

#### 貸借対照表

(単位：円)

	(平成30年 6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
金銭信託	-	19,445,809
コール・ローン	21,996,753	-
親投資信託受益証券	2,231,395,863	1,994,070,483
未収入金	23,650,000	12,880,000
流動資産合計	2,277,042,616	2,026,396,292
資産合計	2,277,042,616	2,026,396,292
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	23,879,998	12,989,999
未払受託者報酬	5,005	7,481
未払委託者報酬	105,122	157,096
未払利息	63	-
その他未払費用	1,635	2,119
流動負債合計	23,991,823	13,156,695
負債合計	23,991,823	13,156,695
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	2,428,168,491	2,153,271,678
剰余金		
剰余金又は欠損金( )	175,117,698	140,032,081
元本等合計	2,253,050,793	2,013,239,597
純資産合計	2,253,050,793	2,013,239,597
負債純資産合計	2,277,042,616	2,026,396,292

#### 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日	
	有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

## （貸借対照表に関する注記）

項目	（平成30年 6月15日現在）		（平成30年12月17日現在）	
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	2,428,168,491口		2,153,271,678口	
2. 「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の6第10号に規定する額	元本の欠損	175,117,698円	元本の欠損	140,032,081円
3. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額	0.9279円	1口当たり純資産額	0.9350円
	(10,000口当たりの純資産額)	9,279円)	(10,000口当たりの純資産額)	9,350円)

## （金融商品に関する注記）

## . 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日	
	1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係る	(1) 金融商品の内容	



リスク	<p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 (2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用グループは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用グループの対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する部会にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・ 金融商品の時価等に関する事項

項 目	(平成30年12月17日現在)
-----	-----------------

1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券(親投資信託受益証券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## (デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

## (その他の注記)

項 目	(平成30年 6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
期首元本額	2,454,003,633円	2,167,154,701円
期中追加設定元本額	-円	-円
期中一部解約元本額	25,835,142円	13,883,023円

## 附属明細表

## 有価証券明細表

## (a) 株式

該当事項はありません。

## (b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド	1,089,120,369	1,994,070,483	
合計		1,089,120,369	1,994,070,483	

## デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## (参考)

S M A M ・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（ F O F s 用）＜適格機関投資家限定＞は、「米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

## 米国短期ハイ・イールド・ボンド・マザーファンド

## 貸借対照表

(単位：円)

	(平成30年 6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	201,842,855	206,943,946
金銭信託	-	52,072,188
コール・ローン	73,136,220	-
社債券	8,046,672,444	7,527,169,531
派生商品評価勘定	-	18,264
未収入金	61,924,768	67,040,913
未収利息	108,383,611	114,972,178
前払費用	11,659,802	6,013,654
流動資産合計	8,503,619,700	7,974,230,674
資産合計	8,503,619,700	7,974,230,674
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	215,976	-
未払解約金	81,156,560	17,285,927
未払利息	210	-
その他未払費用	1,047	937
流動負債合計	81,373,793	17,286,864
負債合計	81,373,793	17,286,864

(平成30年 6月15日現在)

(平成30年12月17日現在)

純資産の部		
元本等		
元本	4,779,392,753	4,345,877,575
剰余金		
剰余金又は欠損金( )	3,642,853,154	3,611,066,235
元本等合計	8,422,245,907	7,956,943,810
純資産合計	8,422,245,907	7,956,943,810
負債純資産合計	8,503,619,700	7,974,230,674

## 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自平成30年12月13日 至平成30年12月17日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。  (1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。  (2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。  (3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(平成30年 6月15日現在)	(平成30年12月17日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	4,779,392,753口	4,345,877,575口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.7622円 (10,000口当たりの純資産額 17,622円)	1口当たり純資産額 1.8309円 (10,000口当たりの純資産額 18,309円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	自 平成30年12月13日 至 平成30年12月17日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1)金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、社債券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいておりません。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2)金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用グループは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用グループの対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員およびリスク管理委員会へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する部会にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>

4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって認める評価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。
---------------------------	--

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成30年12月17日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	(1) 有価証券（社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（デリバティブ取引に関する注記）

（平成30年 6月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（単位：円）

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建	63,000,000	-	63,215,976	215,976
	米ドル	63,000,000	-	63,215,976	215,976
合計		63,000,000	-	63,215,976	215,976

（平成30年12月17日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

（単位：円）

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の	為替予約取引				

取引	売建	17,000,000	-	16,981,736	18,264
	米ドル	17,000,000	-	16,981,736	18,264
	合計	17,000,000	-	16,981,736	18,264

## (注) 1. 時価の算定方法

## (1) 為替予約取引の時価の算定方法について

1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いています。

2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

自 平成30年12月13日

至 平成30年12月17日

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

## (その他の注記)

(平成30年 6月15日現在)

開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	4,825,668,219円
同期中における追加設定元本額	-円
同期中における一部解約元本額	46,275,466円
平成30年 6月15日現在における元本の内訳	
米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジあり）	606,201,985円
米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジなし）	686,723,815円
S M A M ・ヘッジ付き年金米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド<適格機関投資家限定>	2,220,211,214円
S M A M ・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（FOF s用）<適格機関投資家限定>	1,266,255,739円
合計	4,779,392,753円



（平成30年12月17日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	4,355,323,659円
同期中における追加設定元本額	-円
同期中における一部解約元本額	9,446,084円
平成30年12月17日現在における元本の内訳	
米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジあり）	509,362,816円
米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（為替ヘッジなし）	624,774,562円
S M A M ・ヘッジ付き年金米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド<適格機関投資家限定>	2,122,619,828円
S M A M ・米国短期ハイ・イールド・ボンド・ファンド（ F O F s 用 ） <適格機関投資家限定>	1,089,120,369円
合計	4,345,877,575円

## 附属明細表

### 有価証券明細表

#### (a) 株式

該当事項はありません。

#### (b) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
社債券	米ドル	1011778 BC ULC / 4.625	411,000.00	406,376.25	
		ABC SUPPLY CO 5.75	430,000.00	430,989.00	
		ADT CORP 5.25	225,000.00	227,531.25	
		ADT CORP 6.25	525,000.00	543,375.00	
		AES CORP 4	416,000.00	413,400.00	
		AIRCASTLE LTD 5.125	285,000.00	289,264.29	
		AIRCASTLE LTD 7.625	53,000.00	55,474.59	
		ALLY FINANCIAL 3.75	150,000.00	150,150.00	

ALTICE LX 7.75	440,000.00	415,250.00	
AMC ENTMNT HOLDI 5.875	575,000.00	567,093.75	
AMKOR TECH INC 6.375	392,000.00	394,450.00	
ANTERO RESOURCES 5.375	435,000.00	434,456.25	
APX GROUP INC 8.875	825,000.00	816,750.00	
ARAMARK SERV INC 5.125	280,000.00	282,156.00	
ARDAGH PKG FIN 4.25	497,000.00	482,090.00	
ASCENT RESOUR/AR 10	192,000.00	204,000.00	
ASHLAND INC 4.75	457,000.00	456,520.15	
AVANOS MEDICAL 6.25	139,000.00	141,085.00	
B&G FOODS INC 4.625	255,000.00	252,692.25	
BALL CORP 4.375	85,000.00	85,743.75	
BEACON ROOFING S 6.375	282,000.00	284,115.00	
BERRY PLASTICS 5.5	460,000.00	465,175.00	
BERRY PLASTICS 6	190,000.00	193,562.50	
BLUE CUBE SPINCO 9.75	385,000.00	430,718.75	
BLUE RACER MID/F 6.125	344,000.00	339,700.00	
BOMBARDIER INC 7.75	265,000.00	271,293.75	
BOMBARDIER INC 8.75	680,000.00	719,525.00	
BOYD GAMING CORP 6.875	401,000.00	415,415.95	
BROOKFIELD RESID 6.125	45,000.00	43,481.25	
BROOKFIELD RESID 6.5	370,000.00	370,000.00	
CABLE ONE INC 5.75	275,000.00	278,437.50	
CARMIKE CINEMAS 6	529,000.00	532,967.50	
CCO HOLDINGS LLC 5.125	280,000.00	278,600.00	
CCO HOLDINGS LLC 5.25	270,000.00	270,803.25	
CCO HOLDINGS LLC 5.25	556,000.00	558,432.50	
CCO HOLDINGS LLC 5.75	502,000.00	505,137.50	
CENTENE CORP 5.625	375,000.00	381,562.50	
CENTENE CORP 6.125	75,000.00	77,718.75	
CENTRAL GARDEN 6.125	540,000.00	548,100.00	
CENTURYLINK INC 5.625	505,000.00	506,949.30	
CINEMARK USA 5.125	673,000.00	668,793.75	
CIT GROUP INC 4.125	202,000.00	201,495.00	
COGENT COMMUNICA 5.375	535,000.00	538,183.25	

COMMSCOPE INC 5	424,000.00	422,410.00	
CONTINENTAL RES 5	38,000.00	38,103.10	
CRESTWOOD MIDSTR 6.25	375,000.00	370,312.50	
CSC HOLDINGS LLC 10.125	500,000.00	540,625.00	
CSC HOLDINGS LLC 5.125	593,000.00	588,552.50	
D.R. HORTON 4	164,000.00	164,132.52	
DAE FUNDING 4	584,000.00	573,780.00	
DAE FUNDING 4.5	653,000.00	638,307.50	
DAE FUNDING 5.25	365,000.00	365,912.50	
DARLING INGREDIE 5.375	606,000.00	608,272.50	
DAVITA INC 5.75	640,000.00	648,000.00	
DIAMOND 1 FIN/DI 4.42	65,000.00	65,193.41	
DIAMOND 1 FIN/DI 5.875	841,000.00	852,852.88	
DISH DBS CORP 5.125	440,000.00	440,275.00	
DISH DBS CORP 6.75	395,000.00	395,987.50	
DISH DBS CORP 7.875	139,000.00	142,648.75	
ELDORADO RESORTS 7	253,000.00	263,752.50	
EMC CORP 2.65	195,000.00	189,704.50	
ENERGIZER HOLDGS 4.7	70,000.00	69,912.50	
EQUINIX INC 5.375	330,000.00	335,775.00	
EQUINIX INC 5.375	105,000.00	106,575.00	
FIAT CHRYSLER AU 4.5	335,000.00	337,093.75	
FIRST DATA CORP 5.375	290,000.00	292,537.50	
FIRST DATA CORP 5.75	280,000.00	279,300.00	
FIRST QUAL FIN C 4.625	568,000.00	559,480.00	
FRESENIUS MED 5.625	90,000.00	91,038.69	
GEN MOTORS FIN 4.375	75,000.00	74,997.13	
GENESIS ENERGY 6.75	241,000.00	240,698.75	
GLP CAP/FIN II 4.375	72,000.00	72,009.36	
GLP CAP/FIN II 4.875	319,000.00	322,604.70	
GULFPORT ENERGY 6.625	127,000.00	124,777.50	
HCA HOLDINGS INC 6.25	510,000.00	527,850.00	
HCA INC 6.5	150,000.00	154,200.00	
HCA INC 7.5	200,000.00	216,000.00	
HILL-ROM HLDGS 5.75	41,000.00	41,871.25	

HRG GROUP INC 7.75	833,000.00	853,825.00	
HUGHES SATELLITE 6.5	75,000.00	75,984.37	
HUGHES SATELLITE 7.625	165,000.00	173,629.50	
HUNTSMAN INT LLC 4.875	70,000.00	70,875.00	
ICAHN ENTER/FIN 6	295,000.00	296,106.25	
ICAHN ENTER/FIN 6.25	584,000.00	589,840.00	
IHO VERWALTUNGS	673,189.00	649,627.38	
INFOR US INC 5.75	75,000.00	75,281.25	
INFORMATICA CORP 7.125	70,000.00	69,212.50	
INTL GAME TECH 6.25	615,000.00	630,375.00	
IQVIA INC 4.875	175,000.00	174,177.50	
JAGUAR HL / PPD1 6.375	568,000.00	555,220.00	
JAGUAR LAND ROVR 4.25	225,000.00	223,492.50	
JBS USA LUX/FIN 7.25	220,000.00	223,025.00	
LENNAR CORP 2.95	55,000.00	53,556.25	
LENNAR CORP 4.125	492,000.00	481,545.00	
LENNAR CORP 4.5	85,000.00	85,318.75	
LENNAR CORP 4.75	140,000.00	141,050.00	
LENNAR CORP 6.625	220,000.00	227,150.00	
LENNAR CORP 8.375	200,000.00	216,340.00	
LEVEL 3 COMM INC 5.75	765,000.00	765,956.25	
LEVEL 3 FIN INC 5.375	660,000.00	660,825.00	
LEVEL 3 FIN INC 6.125	75,000.00	75,375.00	
LIMITED BRANDS 6.625	471,000.00	493,372.50	
LIMITED BRANDS 7	128,000.00	133,280.00	
LIVE NATION ENT 5.375	415,000.00	418,112.50	
LTF MERGER SUB 8.5	273,000.00	279,825.00	
MANITOWOC FOOD 9.5	110,000.00	118,662.50	
MASONITE INTL 5.625	291,000.00	293,546.25	
MEDNAX INC 5.25	81,000.00	81,000.00	
MGM RESORTS 6.625	655,000.00	690,166.95	
MGM RESORTS 6.75	290,000.00	301,600.00	
MICHAELS STORES 5.875	323,000.00	323,565.25	
MOOG INC 5.25	305,000.00	305,762.50	
MULTI-COLOR CORP 6.125	410,000.00	411,025.00	

NATIONAL CINEMED 6	580,000.00	587,250.00	
NCL CORP 4.75	495,000.00	497,598.75	
NCR CORP 4.625	249,000.00	245,887.50	
NCR CORP 5.875	380,000.00	376,675.00	
NETFLIX INC 5.375	380,000.00	390,260.00	
NETFLIX INC 5.5	320,000.00	328,000.00	
NEWFIELD EXPLOR 5.75	427,000.00	440,924.47	
NEXSTAR BROADC 5.875	240,000.00	243,600.00	
NEXSTAR BROADC 6.125	370,000.00	374,625.00	
NEXTEER AUTO GRP 5.875	235,000.00	239,050.12	
NGPL PIPECO LLC 4.375	253,000.00	251,102.50	
NIELSEN CO LUXEM 5.5	363,000.00	364,815.00	
NIELSEN FINANCE 4.5	320,000.00	320,160.00	
NIELSEN FINANCE 5	740,000.00	721,500.00	
NOKIA OYJ 3.375	47,000.00	45,002.50	
NOVA CHEMICALS 5.25	370,000.00	357,050.00	
OWENS-BROCKWAY 5	375,000.00	374,531.25	
PARK AEROSPACE 3.625	855,000.00	830,418.75	
PARK AEROSPACE 5.25	546,000.00	543,270.00	
PARTY CITY HLDG 6.125	72,000.00	72,540.00	
PENSKE AUTO GRP 3.75	316,000.00	312,840.00	
PENSKE AUTO GRP 5.75	232,000.00	234,610.00	
PQ CORP 6.75	276,000.00	287,812.80	
PRESTIGE BRANDS 5.375	728,000.00	721,630.00	
PRIME SEC/FIN 9.25	402,000.00	427,125.00	
PULTEGROUP INC 4.25	200,000.00	200,740.00	
QEP RESOURCES 6.875	155,000.00	161,975.00	
RANGE RESOURCES 5.75	400,000.00	402,000.00	
REALOGY GRP / CO 4.5	117,000.00	117,146.25	
REALOGY GRP / CO 5.25	640,000.00	626,400.00	
REYNOLDS GROUP	320,000.00	323,200.00	
REYNOLDS GROUP 5.125	225,000.00	221,625.00	
REYNOLDS GROUP 5.75	547,545.86	548,230.29	
REYNOLDS GROUP 6.875	69,307.47	69,567.37	
SABLE INTL FIN 6.875	200,000.00	206,800.00	

SBA COMMUNICATIO 4	290,000.00	281,300.00	
SBA COMMUNICATIO 4.875	375,000.00	375,750.00	
SCIENTIFIC GAMES 10	765,000.00	792,731.25	
SEALED AIR CORP 4.875	107,000.00	107,802.50	
SEALED AIR CORP 5.25	76,000.00	77,235.00	
SINCLAIR TELE 5.375	415,000.00	415,000.00	
SINCLAIR TELE 6.125	460,000.00	468,050.00	
SIRIUS XM RADIO 3.875	630,000.00	611,604.00	
SOLERA LLC / FIN 10.5	682,000.00	737,412.50	
SOPHIA LP/FIN 9	113,000.00	114,977.50	
SOUTHERN STAR 5.125	265,000.00	260,362.50	
SPECTRUM BRANDS 6.625	190,000.00	194,930.50	
SPRINT CAPITAL CORP 6.9%	201,000.00	203,763.75	
SPRINT CORP 7.25	348,000.00	361,920.00	
SPRINT NEXTEL 7	512,000.00	529,428.48	
STANDARD INDS IN 5.5	211,000.00	210,208.75	
STEEL DYNAMICS 5.125	115,000.00	115,580.75	
STERIGENICS-NORD 6.5	340,000.00	333,200.00	
SUMMIT MATERIALS 6.125	216,000.00	216,810.00	
SUNOCO LP/FIN 4.875	344,000.00	337,980.00	
SURGERY CENTER 8.875	404,000.00	406,020.00	
SYMANTEC CORP 3.95	145,000.00	141,541.00	
SYNEOS HEALTH IN 7.5	138,000.00	144,900.00	
T-MOBILE USA INC 4	73,000.00	71,640.74	
T-MOBILE USA INC 6	210,000.00	214,987.50	
TARGA RES PRTNRS 4.125	148,000.00	147,630.00	
TARGA RES PRTNRS 5.25	373,000.00	372,533.75	
TAYLOR MORRISON 5.25	305,000.00	304,618.75	
TENET HEALTHCARE 5.5	220,000.00	220,550.00	
TENET HEALTHCARE 6	407,000.00	416,157.50	
TENET HEALTHCARE 7.5	280,000.00	290,500.00	
TRANSDIGM INC 5.5	770,000.00	770,000.00	
TRANSDIGM INC 6	761,000.00	761,000.00	
TRIBUNE MEDIA 5.875	455,000.00	465,237.50	
UNIVAR USA INC 6.75	390,000.00	390,487.50	

	UNIVERSAL HLTH S 4.75	20,000.00	20,100.00	
	UNIVISION COMM 6.75	457,000.00	463,855.00	
	URS CORP/URS FOX 5	320,000.00	316,800.00	
	VIDEOTRON LTD 5	25,000.00	25,375.00	
	WATCO COS LLC/FI 6.375	460,000.00	462,704.80	
	WESCO DISTRIBUT 5.375	350,000.00	351,312.50	
	WILLIAM CARTER 5.25	232,000.00	232,000.00	
	WMG ACQUISITION 5.625	625,000.00	630,468.75	
	WPX ENERGY INC 6	115,000.00	115,287.50	
	WR GRACE & CO-CO 5.125	360,000.00	362,250.00	
	ZAYO GROUP LLC 6	735,000.00	723,975.00	
	米ドル 小計	65,844,042.33	66,336,208.09	(7,527,169,531)
	合計		7,527,169,531	(7,527,169,531)

(注) 金額欄の( )内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数	組入債券時価比率	合計金額に対する比率
米ドル	社債券 194銘柄	94.6%	100.0%

#### デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

#### (参考)

「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(ヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)」および「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(アンヘッジド・マンスリー・ディストリビューション・クラス)」は、「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド」の各シェアクラスです。

以下に記載した状況は、監査の対象外です。

#### アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド

アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンドは、ガーンジー籍の外国投資信託で、現地での監査を受けております。

なお、以下の財務諸表は、入手しうる直近の現地監査済み財務諸表を委託会社において抜粋して翻訳したものです。

## 貸借対照表(2018年7月31日現在)

(単位: 日本円)

資産		
損益を通じて公正価値で評価する投資ポートフォリオ		1,127,006,909
現預金		52,593,668
未収金		50,056,167
為替先渡契約未実現利益		8,365,463
資産合計		1,238,022,207
負債		
未払金(1年以内)		(15,024,624)
為替先渡契約未実現損失		(31,201,764)
負債合計(参加投資主に帰属する純資産を除く)		(46,226,388)
参加投資主に帰属する純資産		1,191,795,819

## 投資明細表(2018年7月31日現在)

投資銘柄	満期日	通貨	名目元本	時価 日本円	純資産 比率 (%)
公認の証券取引所に上場されている証券					
債券					
アンゴラ					
Republic of Angola via Northern Lights BV 7%	2019年8月17日	米ドル	459,375	52,045,274	4.37
				52,045,274	4.37
バーレーン					
Batelco International Finance No1 Ltd 4.25%	2020年5月1日	米ドル	400,000	43,345,750	3.64
				43,345,750	3.64
ブラジル					
Banco BTG Pactual SA 4%	2020年1月16日	米ドル	200,000	22,053,423	1.85
Banco Votorantim SA 7.375%	2020年1月21日	米ドル	450,000	52,413,401	4.40
Braskem Finance Ltd 5.75%	2021年4月15日	米ドル	200,000	23,155,244	1.94
Cia Brasileira de Alumínio 6.75%	2021年4月5日	米ドル	200,000	23,294,845	1.95
CSN Islands XI Corp 6.875%	2019年9月21日	米ドル	630,000	70,296,325	5.90
CSN Resources SA 6.5%	2020年7月21日	米ドル	550,000	59,062,695	4.96
				250,275,933	21.00
中国					
Central China Real Estate Ltd 6.5%	2021年3月5日	米ドル	400,000	43,198,721	3.62
Central China Real Estate Ltd 8.75%	2021年1月23日	米ドル	200,000	22,747,738	1.91
China Evergrande Group 7%	2020年3月23日	米ドル	360,000	40,330,246	3.38
China Hongqiao Group Ltd 6.85%	2019年4月22日	米ドル	200,000	22,360,814	1.88
China SCE Property Holdings Ltd 7.45%	2021年4月17日	米ドル	200,000	21,985,994	1.85
CIFI Holdings Group CO Ltd 6.875%	2021年4月23日	米ドル	200,000	22,041,879	1.85
Kaisa Group Holdings Ltd 7.25%	2020年6月30日	米ドル	224,000	23,088,115	1.94
Sunac China Holdings Ltd 8.75%	2019年12月5日	米ドル	270,000	30,576,858	2.57
Times China Holdings Ltd 6.25%	2021年1月17日	米ドル	200,000	21,361,434	1.79
Tungshu Vemus Holdings Ltd 7%	2020年6月12日	米ドル	200,000	16,341,784	1.37
Yuzhou Properties Co Ltd 6.375%	2021年3月6日	米ドル	300,000	32,569,952	2.73
				296,603,535	24.89
エクアドル					



Ecuador Government International Bond 10.5%	2020年3月24日	米ドル	420,000	49,212,807	4.13
EP PetroEcuador via Noble Sovereign Funding Ltd 7.96563% FRN	2019年9月24日	米ドル	1,047,368	116,285,800	9.76
Petroamazonas EP 4.625%	2020年11月6日	米ドル	200,000	20,895,448	1.75
				186,394,055	15.64
ジャマイカ					
Digicel Ltd 6%	2021年4月15日	米ドル	700,000	72,117,708	6.05
				72,117,708	6.05
レバノン					
Lebanon Government International Bond 6.375%	2020年3月9日	米ドル	350,000	38,044,436	3.19
				38,044,436	3.19
メキシコ					
BBVA Bancomer SA 6.5%	2021年3月10日	米ドル	150,000	17,708,053	1.48
BBVA Bancomer SA 7.25%	2020年4月22日	米ドル	100,000	11,787,248	0.99
				29,495,301	2.47
モンゴル					
Trade and Development Bank of Mongolia LLC 9.375%	2020年5月19日	米ドル	415,000	49,368,345	4.14
				49,368,345	4.14
ナイジェリア					
First Bank of Nigeria Ltd via FBN Finance Co BV 8.25% FRN	2020年8月7日	米ドル	200,000	22,260,140	1.87
				22,260,140	1.87
カタール					
QNB Finance Ltd 3.65719% FRN	2021年5月31日	米ドル	200,000	22,467,215	1.88
				22,467,215	1.88
トルコ					
KOC Holdings AS 3.5%	2020年4月24日	米ドル	400,000	43,063,505	3.61
Turkiye Is Bankasi AS 5%	2020年4月30日	米ドル	200,000	21,525,712	1.81
				64,589,217	5.42
債券合計				1,127,006,909	94.56
公認の証券取引所に上場されている証券合計				1,127,006,909	94.56
投資合計				1,127,006,909	94.56

未実現利益(損失)  
日本円 純資産比率(%)

為替先渡契約未実現利益	8,365,463	0.70
為替先渡契約未実現損失	(31,201,764)	(2.61)
為替先渡契約純未実現損失	(22,836,301)	(1.91)

時価  
日本円 純資産比率(%)

投資有価証券・為替先渡契約合計	1,104,170,608	92.65
現預金	52,593,668	4.41
その他資産・負債	35,031,543	2.94
純資産	1,191,795,819	100.00

## 信用格付別有価証券分類

	時価
	日本円
投資適格	129,688,862
投資適格未滿	951,869,118
未格付	45,448,929
	<u>1,127,006,909</u>

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

B D C プラス（為替ヘッジあり / 年4回決算型）

2018年12月28日現在

資産総額	579,958,169円
負債総額	1,038,991円
純資産総額（ - ）	578,919,178円
発行済口数	715,416,555口
1口当たり純資産額（ / ）	0.8092円
（1万口当たり純資産額）	（8,092円）

B D C プラス（為替ヘッジなし / 年4回決算型）

2018年12月28日現在

資産総額	586,040,996円
負債総額	1,898,446円
純資産総額（ - ）	584,142,550円
発行済口数	727,190,726口
1口当たり純資産額（ / ）	0.8033円
（1万口当たり純資産額）	（8,033円）

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券は発行されません。

## イ 名義書換

該当事項はありません。

## ロ 受益者名簿

作成しません。

## ハ 受益者に対する特典

ありません。

## ニ 受益権の譲渡および譲渡制限等

## (イ) 受益権の譲渡

- a . 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- b . 上記 a の申請のある場合には、上記 a の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受

益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記 a の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

- c. 上記 a の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(ロ) 受益権の譲渡制限および譲渡の対抗要件

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

ホ 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議の上、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

ヘ 償還金

償還金は、原則として、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に支払います。

ト 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

### 第三部【委託会社等の情報】

#### 第1【委託会社等の概況】

##### 1【委託会社等の概況】

###### イ 資本金の額および株式数

	2018年12月28日現在
資本金の額	2,000百万円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	17,640,000株

###### ロ 最近5年間における資本金の額の増減 該当ありません。

###### ハ 会社の機構

委託会社の取締役は7名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

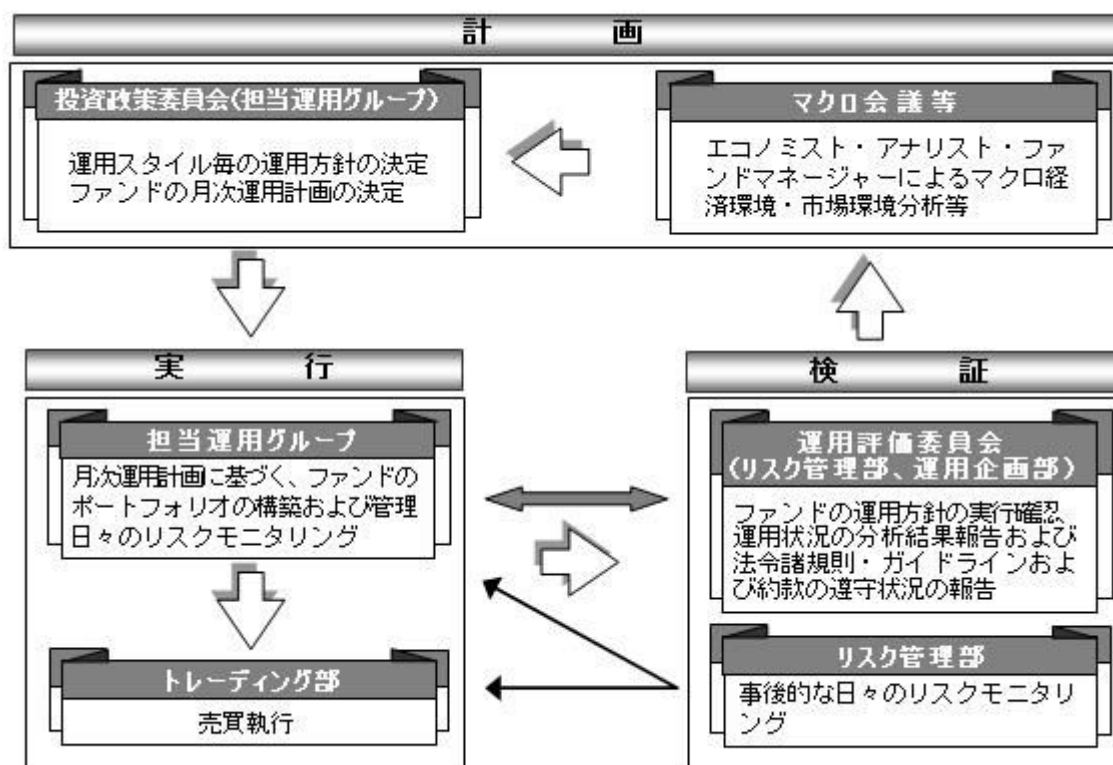
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定します。

##### 二 投資信託の運用の流れ



## 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2018年12月28日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

	本数(本)	純資産総額(円)
追加型株式投資信託	460	5,571,176,784,447
単位型株式投資信託	91	431,508,495,114
追加型公社債投資信託	1	28,472,849,546
単位型公社債投資信託	112	295,752,952,848
合計	664	6,326,911,081,955

## 3【委託会社等の経理状況】

1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2 当社は、第33期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任あずさ監査法人の監査を受けており、第34期中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任あずさ監査法人の中間監査を受けております。

### (1)【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,279,384	20,873,870
顧客分別金信託	20,008	20,010
前払費用	351,526	402,249
未収入金	40,544	39,030
未収委託者報酬	5,511,715	6,332,203
未収運用受託報酬	1,297,104	1,725,215

未収投資助言報酬	343,523	316,407
未収収益	20,789	50,321
繰延税金資産	482,535	715,988
その他の流動資産	5,560	10,891
流動資産合計	21,352,691	30,486,188
固定資産		
有形固定資産	1	
建物	198,767	185,371
器具備品	261,096	300,694
有形固定資産合計	459,864	486,065
無形固定資産		
ソフトウェア	493,806	409,765
ソフトウェア仮勘定	141,025	5,755
電話加入権	68	56
商標権	3	-
無形固定資産合計	634,903	415,576
投資その他の資産		
投資有価証券	12,098,372	10,616,594
関係会社株式	10,412,523	10,412,523
長期差入保証金	677,681	658,505
長期前払費用	61,282	69,423
会員権	7,819	7,819
繰延税金資産	871,577	678,459
投資その他の資産合計	24,129,257	22,443,325
固定資産合計	25,224,025	23,344,968
資産合計	46,576,717	53,831,157

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
顧客からの預り金	304	84
その他の預り金	80,380	92,326
未払金		
未払収益分配金	655	649
未払償還金	140,124	137,522
未払手数料	2,424,318	2,783,763
その他未払金	52,903	236,739
未払費用	2,564,625	3,433,641
未払消費税等	160,571	547,706
未払法人税等	661,467	1,785,341
賞与引当金	1,001,068	1,507,256
その他の流動負債	445	1,408
流動負債合計	7,086,864	10,526,438
固定負債		
退職給付引当金	3,177,131	3,319,830
賞与引当金	40,167	99,721
その他の固定負債	2,174	3,363
固定負債合計	3,219,473	3,422,915
負債合計	10,306,337	13,949,354

純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984
資本剰余金合計	8,628,984	8,628,984
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金	60,000	60,000
別途積立金	1,476,959	1,476,959
繰越利益剰余金	23,493,074	26,561,078
利益剰余金合計	25,314,279	28,382,283
株主資本計	35,943,263	39,011,267
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	327,116	870,535
評価・換算差額等合計	327,116	870,535
純資産合計	36,270,379	39,881,802
負債・純資産合計	46,576,717	53,831,157

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	31,628,014	36,538,981
運用受託報酬	5,649,190	8,362,118
投資助言報酬	1,726,511	1,440,233
その他営業収益		
情報提供コンサルタント 業務報酬	5,000	5,000
サービス支援手数料	61,268	128,324
その他	54,261	55,820
営業収益計	39,124,246	46,530,479
営業費用		
支払手数料	14,908,517	16,961,384
広告宣伝費	366,227	353,971
公告費	1,140	1,140
調査費		
調査費	1,325,978	1,654,233
委託調査費	4,343,104	5,972,473
営業雑経費		
通信費	46,030	40,066
印刷費	338,254	339,048
協会費	21,669	-
諸会費	20,054	45,465
情報機器関連費	2,516,497	2,582,734
販売促進費	24,896	34,333
その他	149,177	136,669



営業費用合計		24,061,549	28,121,520
一般管理費			
給料			
役員報酬		225,885	196,529
給料・手当		6,121,741	6,190,716
賞与		610,533	601,375
賞与引当金繰入額		989,925	1,566,810
交際費		23,136	25,709
事務委託費		317,928	256,413
旅費交通費		229,248	220,569
租税公課		268,527	282,036
不動産賃借料		622,662	654,286
退職給付費用		423,954	419,884
固定資産減価償却費		384,068	329,756
諸経費		335,840	285,490
一般管理費合計		10,553,451	11,029,580
営業利益		4,509,246	7,379,378
営業外収益			
受取配当金	1	106,651	51,335
受取利息	1	745	520
時効成立分配金・償還金		1,721	2,622
原稿・講演料		1,474	894
雑収入		12,592	10,669
営業外収益合計		123,184	66,042
営業外費用			
為替差損		9,737	5,125
雑損失		1,084	913
営業外費用合計		10,821	6,038
経常利益		4,621,608	7,439,383
特別利益			
投資有価証券償還益		353,462	61,842
投資有価証券売却益		2,579	30,980
特別利益合計		356,041	92,822
特別損失			
固定資産除却損	2	8,157	354,695
投資有価証券償還損		43,644	141,666
投資有価証券売却損		15,012	9,634
ゴルフ会員権売却損		3,894	-
事務所移転費用		21,175	-
特別損失合計		91,884	505,996
税引前当期純利益		4,885,765	7,026,209
法人税、住民税及び事業税		1,391,996	2,350,891
法人税等調整額		25,454	280,166
法人税等合計		1,366,541	2,070,725
当期純利益		3,519,223	4,955,483

## (3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				株主資本 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計	
					配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	21,984,811	23,806,015	34,434,999
当期変動額									
剰余金の配当							2,010,960	2,010,960	2,010,960
当期純利益							3,519,223	3,519,223	3,519,223
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	1,508,263	1,508,263	1,508,263
当期末残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	23,493,074	25,314,279	35,943,263

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	517,775	517,775	34,952,774
当期変動額			
剰余金の配当			2,010,960
当期純利益			3,519,223
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	190,658	190,658	190,658
当期変動額合計	190,658	190,658	1,317,604
当期末残高	327,116	327,116	36,270,379

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				株主資本 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計	
					配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	23,493,074	25,314,279	35,943,263
当期変動額									
剰余金の配当							1,887,480	1,887,480	1,887,480
当期純利益							4,955,483	4,955,483	4,955,483
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	3,068,003	3,068,003	3,068,003
当期末残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	26,561,078	28,382,283	39,011,267

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	327,116	327,116	36,270,379
当期変動額			

剰余金の配当			1,887,480
当期純利益			4,955,483
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	543,419	543,419	543,419
当期変動額合計	543,419	543,419	3,611,423
当期末残高	870,535	870,535	39,881,802

## [注記事項]

### (重要な会計方針)

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) 満期保有目的の債券

償却原価法

##### (2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

##### (3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

器具備品 3～20年

##### (2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

##### (2) 退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

#### 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	291,976千円	312,784千円
器具備品	651,918千円	768,929千円

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。

当事業年度末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座借越極度額の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入金未実行残高	-千円	-千円
差引額	10,000,000千円	10,000,000千円

3 保証債務

当社は、子会社であるSumitomo Mitsui Asset Management(New York) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、平成35年6月までの賃借料総額の支払保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
Sumitomo Mitsui Asset Management (New York) Inc.	256,031千円	204,923千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
受取配当金	106,640千円	-千円
受取利息	18千円	-千円

2 固定資産除却損

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
建物	6,952千円	-千円
器具備品	1,204千円	0千円
ソフトウェア	-千円	9,000千円
ソフトウェア仮勘定	-千円	345,695千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

1.発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	-	-	17,640株

## 2. 剰余金の配当に関する事項

## (1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,010,960	114,000	平成28年 3月31日	平成28年 6月28日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生在翌事業年度になるもの

平成29年6月27日開催の第32回定時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,887,480	107,000	平成29年 3月31日	平成29年 6月28日

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

## 1. 発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	-	-	17,640株

## 2. 剰余金の配当に関する事項

## (1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,887,480	107,000	平成29年 3月31日	平成29年 6月28日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生在翌事業年度になるもの

平成30年6月26日開催の第33回定時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,822,400	160,000	平成30年 3月31日	平成30年 6月27日

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
1年以内	626,698	208,187
1年超	191,491	42,916
合計	818,190	251,104

(金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っています。そのため、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない

運用を行っています。また、資金調達及びデリバティブ取引は行っていません。

## (2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

投資有価証券については、主に事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、主に全額出資の子会社の株式及び50%出資した関連会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。また、長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金等であり、差入先の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

## (3)金融商品に係るリスク管理体制

### 信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

投資有価証券、子会社株式及び関連会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

長期差入保証金についても、差入先の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

### 市場リスクの管理

投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、企画部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

## (4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格及び業界団体が公表する売買参考統計値等に基づく価額のほか、これらの価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることがあります。

## 2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（（注2）参照）。

前事業年度（平成29年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	13,279,384	13,279,384	-
(2)顧客分別金信託	20,008	20,008	-
(3)未収委託者報酬	5,511,715	5,511,715	-
(4)未収運用受託報酬	1,297,104	1,297,104	-
(5)未収投資助言報酬	343,523	343,523	-
(6)投資有価証券			
その他有価証券	12,098,074	12,098,074	-
(7)長期差入保証金	677,681	677,681	-
資産計	33,227,492	33,227,492	-
(1)顧客からの預り金	304	304	-
(2)未払手数料	2,424,318	2,424,318	-
負債計	2,424,622	2,424,622	-

当事業年度（平成30年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	20,873,870	20,873,870	-
(2)顧客分別金信託	20,010	20,010	-
(3)未収委託者報酬	6,332,203	6,332,203	-
(4)未収運用受託報酬	1,725,215	1,725,215	-
(5)未収投資助言報酬	316,407	316,407	-
(6)投資有価証券			
其他有価証券	10,616,296	10,616,296	-
(7)長期差入保証金	658,505	658,505	-
資産計	40,542,507	40,542,507	-
(1)顧客からの預り金	84	84	-
(2)未払手数料	2,783,763	2,783,763	-
負債計	2,783,847	2,783,847	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬、及び(5)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6)投資有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

(7)長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(1)顧客からの預り金、(2)未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

（単位：千円）

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
其他有価証券 非上場株式	298	298
合計	298	298
子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	10,412,523	10,412,523
合計	10,412,523	10,412,523

其他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、「(6)其他有価証券」には含めておりません。

子会社株式及び関連会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成29年3月31日）

（単位：千円）

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超

現金及び預金	13,279,384	-	-	-
顧客分別金信託	20,008	-	-	-
未収委託者報酬	5,511,715	-	-	-
未収運用受託報酬	1,297,104	-	-	-
未収投資助言報酬	343,523	-	-	-
長期差入保証金	31,201	646,480	-	-
合計	20,482,937	646,480	-	-

当事業年度（平成30年3月31日）

（単位：千円）

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	20,873,870	-	-	-
顧客分別金信託	20,010	-	-	-
未収委託者報酬	6,332,203	-	-	-
未収運用受託報酬	1,725,215	-	-	-
未収投資助言報酬	316,407	-	-	-
長期差入保証金	602,360	56,144	-	-
合計	29,870,067	56,144	-	-

（有価証券関係）

1. 子会社株式及び関連会社株式

前事業年度（平成29年3月31日）

子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式10,412,523千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度（平成30年3月31日）

子会社株式及び関連会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式10,412,523千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

前事業年度（平成29年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	4,921,829	4,267,927	653,902
小計	4,921,829	4,267,927	653,902
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	7,176,244	7,358,662	182,417
小計	7,176,244	7,358,662	182,417
合計	12,098,074	11,626,589	471,485

（注）非上場株式等（貸借対照表計上額 298千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度（平成30年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	7,366,669	6,046,232	1,320,437
小計	7,366,669	6,046,232	1,320,437
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	3,249,626	3,315,328	65,701



小計	3,249,626	3,315,328	65,701
合計	10,616,296	9,361,560	1,254,735

(注)非上場株式等(貸借対照表計上額 298千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

### 3.事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
228,204	2,579	15,012

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
532,099	30,980	9,634

(退職給付関係)

#### 1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

#### 2.確定給付制度

##### (1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,028,212	3,177,131
勤務費用	280,524	285,715
利息費用	-	2,922
数理計算上の差異の発生額	15,494	51,212
退職給付の支払額	116,111	94,727
退職給付債務の期末残高	3,177,131	3,319,830

##### (2)退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	3,177,131	3,319,830
未認識数理計算上の差異	-	-
未認識過去勤務費用	-	-
退職給付引当金	3,177,131	3,319,830

##### (3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	280,524	285,715
利息費用	-	2,922
数理計算上の差異の費用処理額	15,494	51,212
その他	158,924	182,458
確定給付制度に係る退職給付費用	423,954	419,884

(注) その他は、その他の関係会社等からの出向者の年金掛金負担分及び退職給付引当額相当額負担分、退職定年制度適用による割増退職金並びに確定拠出年金への拠出額になります。

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前事業年度	当事業年度
	(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
割引率	0.092%	0.000%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度137,310千円、当事業年度147,195千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位:千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
流動の部		
繰延税金資産		
賞与引当金	308,929	461,521
調査費	79,381	90,509
未払金	45,745	59,821
未払事業税	46,406	102,103
その他	2,071	2,032
繰延税金資産合計	482,535	715,988
固定の部		
繰延税金資産		
退職給付引当金	972,837	1,016,532
ソフトウェア償却	18,718	11,289
賞与引当金	12,299	30,534
投資有価証券評価損	95	95
その他	14,592	6,805
繰延税金資産小計	1,018,544	1,065,256
評価性引当額	2,597	2,597
繰延税金資産合計	1,015,946	1,062,659
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	144,368	384,200
繰延税金負債合計	144,368	384,200
繰延税金資産の純額	1,354,113	1,394,447

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主

要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.8%
(調整)		
評価性引当額の増減	0.1	-
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.2
受取配当等永久に益金に算入されない項目	0.8	-
住民税均等割等	0.1	0.1
所得税額控除による税額控除	2.2	1.9
その他	0.0	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.9	29.4

(セグメント情報等)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1.セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2.関連情報

(1)製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	31,628,014	5,649,190	1,726,511	120,529	39,124,246

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

## 1.セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

## 2.関連情報

### (1)製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	36,538,981	8,362,118	1,440,233	189,145	46,530,479

### (2)地域ごとの情報

#### 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### (3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## 3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

## 4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

## 5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

## (関連当事者情報)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

### 1. 関連当事者との取引

#### (1)子会社及び関連会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	SumitomoMitsui AssetManagement (HongKong)Limited	Hong Kong	5,000,000 (ホンコン ドル)	投資運 用業	% (所有) 直接100	投信の助 言業務 役員の 兼任	剰余金 の配当	106,640	-	-

(注)取引条件及び取引条件の決定方針等  
受取配当金については、剰余金の分配可能額を基礎とした一定の基準に基づき合理的に決定しております。

#### (2)兄弟会社等

（単位：千円）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	㈱三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	-	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	2,737,677	未払 手数料	489,567
親会社の子会社	SMBC日興証券㈱	東京都千代田区	10,000,000	証券業	-	投信の販売委託	委託販売 手数料	5,485,934	未払 手数料	862,697

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。  
 3. ㈱三井住友銀行の属性が、平成28年7月29日付けで、「その他の関係会社」より「親会社」、平成28年10月1日付けで「親会社」より「親会社の子会社」に異動となりました。なお、取引金額の中には、「その他の関係会社」及び「親会社」であった期間の取引金額が含まれております。  
 4. SMBC日興証券㈱の属性が、平成28年10月1日付けで、「その他の関係会社の子会社」より「親会社の子会社」に異動となりました。なお、取引金額の中には、「その他の関係会社の子会社」であった期間の取引金額が含まれております。

2. 親会社に関する注記  
 株式会社三井住友フィナンシャルグループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

（単位：千円）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	㈱三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	-	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	2,761,066	未払 手数料	429,436
親会社の子会社	SMBC日興証券㈱	東京都千代田区	10,000,000	証券業	-	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,685,815	未払 手数料	953,752

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記  
 株式会社三井住友フィナンシャルグループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	2,056,143.98円	2,260,873.18円
1株当たり当期純利益金額	199,502.47円	280,923.11円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	3,519,223	4,955,483
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	3,519,223	4,955,483

期中平均株式数(株)	17,640	17,640
------------	--------	--------

## (重要な後発事象)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する主要株主間での基本合意について

平成30年5月11日付で当社及び大和住銀投信投資顧問株式会社の主要株主である株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社大和証券グループ本社、三井住友海上火災保険株式会社及び住友生命保険相互会社が、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する基本合意書を締結しました。

## 中間財務諸表

## (1)中間貸借対照表

(単位：千円)

		第34期中間会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		19,085,678
顧客分別金信託		20,010
前払費用		414,616
未収委託者報酬		7,225,367
未収運用受託報酬		1,541,190
未収投資助言報酬		306,565
未収収益		51,614
その他		53,465
流動資産合計		28,698,508
固定資産		
有形固定資産	1	508,186
無形固定資産		437,397
投資その他の資産		
投資有価証券		9,519,317
関係会社株式		10,412,523
繰延税金資産		1,364,662
その他		1,500,406
投資その他の資産合計		22,796,910
固定資産合計		23,742,493
資産合計		52,441,002
負債の部		
流動負債		
顧客からの預り金		649
その他の預り金		116,730
未払金		3,491,463
未払費用		3,428,351

未払法人税等		1,080,277
前受収益		8,509
賞与引当金		1,233,571
その他	2	228,340
流動負債合計		9,587,893
固定負債		
退職給付引当金		3,435,254
賞与引当金		41,631
その他		1,383
固定負債合計		3,478,268
負債合計		13,066,162
純資産の部		
株主資本		
資本金		2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		8,628,984
資本剰余金合計		8,628,984
利益剰余金		
利益準備金		284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金		60,000
別途積立金		1,476,959
繰越利益剰余金		26,222,740
利益剰余金合計		28,043,944
株主資本合計		38,672,928
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		701,911
評価・換算差額等合計		701,911
純資産合計		39,374,840
負債純資産合計		52,441,002

## (2)中間損益計算書

(単位：千円)

		第34期中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
営業収益		
委託者報酬		20,003,107
運用受託報酬		3,216,910
投資助言報酬		696,543
その他の営業収益		117,677
営業収益計		24,034,239
営業費用		15,495,987
一般管理費	1	5,200,633

営業利益		3,337,618
営業外収益	2	13,622
営業外費用	3	10,296
経常利益		3,340,944
特別利益	4	293,441
特別損失	5	35,355
税引前中間純利益		3,599,031
法人税、住民税及び事業税		1,010,764
法人税等調整額		104,205
法人税等合計		1,114,969
中間純利益		2,484,061

## (3)中間株主資本等変動計算書

第34期中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金				
					配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	26,561,078	28,382,283	39,011,267
当中間期変動額									
剰余金の配当							2,822,400	2,822,400	2,822,400
中間純利益							2,484,061	2,484,061	2,484,061
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）									
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	-	338,338	338,338	338,338
当中間期末残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	26,222,740	28,043,944	38,672,928

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	870,535	870,535	39,881,802
当中間期変動額			
剰余金の配当			2,822,400
中間純利益			2,484,061
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	168,624	168,624	168,624
当中間期変動額合計	168,624	168,624	506,962
当中間期末残高	701,911	701,911	39,374,840

## 注記事項

## （重要な会計方針）

## 1. 資産の評価基準及び評価方法

## (1)有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券



時価のあるもの

中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

## 2. 固定資産の減価償却の方法

### (1)有形固定資産

定率法によっております。但し、建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

器具備品 3～20年

### (2)無形固定資産

定額法によっております。

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

## 3. 引当金の計上基準

### (1)賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。

### (2)退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

## 4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

（表示方法の変更）

「税効果会計に係る会計基準」の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当中間会計期間の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

（中間貸借対照表関係）

第34期中間会計期間 (平成30年9月30日)	
1. 有形固定資産の減価償却累計額	1,162,157千円
2. 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額の重要性が乏しいため、流動負債のその他に含めて表示しております。	
3. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。当中間会計期間末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。 当座借越極度額の総額 10,000,000千円 借入実行残高 - 差引額 10,000,000千円	
4. 当社は、子会社であるSumitomo Mitsui Asset Management(New York) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、平成35年6月までの賃借料総額198,989千円の支払保証を行っております。	

（中間損益計算書関係）

第34期中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
1. 減価償却実施額	
有形固定資産	80,772千円
無形固定資産	84,457千円
2. 営業外収益のうち主要なもの	
雑益	13,281千円
3. 営業外費用のうち主要なもの	
為替差損	10,293千円
4. 特別利益のうち主要なもの	
投資有価証券償還益	289,451千円
投資有価証券売却益	3,990千円
5. 特別損失のうち主要なもの	
合併関連費用	23,103千円
合併関連費用は、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する業務委託費用等であり	
ます。	
投資有価証券売却損	12,101千円

## (中間株主資本等変動計算書関係)

第34期中間会計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

## 1. 発行済株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
普通株式	17,640株	-	-	17,640株

## 2. 剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,822,400	160,000	平成30年 3月31日	平成30年 6月27日

## (リース取引関係)

第34期中間会計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)	
1. オペレーティング・リース取引 (借主側)	
未経過リース料(解約不能のもの)	
1年以内	595,231千円
1年超	3,853,814千円
合 計	4,449,045千円

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の時価等に関する事項

第34期中間会計期間(平成30年9月30日)

平成30年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注2)参照)。

(単位:千円)

区分	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	19,085,678	19,085,678	-
(2)顧客分別金信託	20,010	20,010	-
(3)未収委託者報酬	7,225,367	7,225,367	-
(4)未収運用受託報酬	1,541,190	1,541,190	-
(5)未収投資助言報酬	306,565	306,565	-
(6)投資有価証券			
その他有価証券	9,519,019	9,519,019	-
(7)投資その他の資産			
長期差入保証金	1,434,365	1,434,365	-
資産計	39,132,197	39,132,197	-

(1)顧客からの預り金	649	649	-
(2)未払金 未払手数料	3,310,988	3,310,988	-
負債計	3,311,637	3,311,637	-

## (注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

## 資 産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬、及び(5)未収投資助言報酬  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (6)投資有価証券

## その他有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

## (7)投資その他の資産

## 長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## 負 債

## (1)顧客からの預り金、及び(2)未払金 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額
その他有価証券 非上場株式	298
合計	298
子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	10,412,523
合計	10,412,523

その他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、「(6)その他有価証券」には含めておりません。

子会社株式及び関連会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしておりません。

## (有価証券関係)

第34期中間会計期間（平成30年9月30日）

## 1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（中間貸借対照表計上額 10,412,523千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

(単位：千円)

区分	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)中間貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 投資信託等	6,621,299	5,533,700	1,087,599
小計	6,621,299	5,533,700	1,087,599
(2)中間貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 投資信託等	2,897,719	2,973,628	75,908
小計	2,897,719	2,973,628	75,908
合計	9,519,019	8,507,328	1,011,691

(注) 非上場株式等（中間貸借対照表計上額 298千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

（資産除去債務等）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

第34期中間会計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への 営業収益	20,003,107	3,216,910	696,543	117,677	24,034,239

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

<p>第34期中間会計期間 （自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）</p>
--

1株当たり純資産額	2,232円13銭
1株当たり中間純利益	140円81銭
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。</p>	
<p>(注)当社は、平成30年11月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり中間純利益を算定しております。</p>	
<p>1株当たり純資産額の算定上の基礎</p>	
中間貸借対照表の純資産の部の合計額	39,374,840千円
普通株式に係る純資産額	39,374,840千円
普通株式の発行済株式数	17,640株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	17,640,000株
<p>1株当たり中間純利益の算定上の基礎</p>	
中間損益計算書上の中間純利益	2,484,061千円
普通株式に係る中間純利益	2,484,061千円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	
該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	17,640株
1株当たり中間純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数	17,640,000株

## (追加情報)

当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との間での合併契約の締結について

当社は、平成30年9月28日開催の当社取締役会において、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社(以下「大和住銀」)との間で合併契約を締結することについて決議し、同日付で締結しました。また、平成30年10月31日に当社臨時株主総会において当該合併契約の承認を得ております。

## 1. 企業結合の概要

## (1)被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 大和住銀投信投資顧問株式会社  
事業の内容 投資運用業、投資助言・代理業等

## (2)企業結合を行う主な理由

資産運用ビジネスはグローバルに成長拡大しており、お客さまから求められる運用力やサービスはますます高度化しております。本件合併は、このようなお客さまからのニーズに対応するために、両運用会社の持つ強み・ノウハウを結集した、フィデューシャリー・デューティーに基づく最高品質の運用パフォーマンスとサービスを提供する資産運用会社の実現を図るものであります。

## (3)企業結合日

平成31年4月1日(予定)

## (4)企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、大和住銀を消滅会社とする吸収合併方式であります。

## (5)結合後企業の名称

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

## (6)取得企業を決定するに至った主な根拠

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)の考え方に基づき、当社を取得企業としております。

## 2. 合併比率及びその算定方法並びに交付予定の株式数

### (1) 合併比率

大和住銀の普通株式 1 株に対し、当社の普通株式4.2156株を割当て交付いたします。

### (2) 合併比率の算定方法

当社はE Yトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社を、大和住銀はP w Cアドバイザー合同会社を、合併比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定し、各第三者算定機関による算定結果を参考に、両社の財務の状況、資産の状況、将来の見通し等の要因を総合的に勘案し、合併比率について慎重に協議を重ねた結果、合併比率が妥当であるとの判断し、合意に至ったものであります。

### (3) 交付予定の株式数

普通株式：16,230,060株

## （重要な後発事象）

### 株式分割

当社は、平成30年9月28日開催の取締役会決議に基づき、平成30年11月1日付で株式分割を行っております。

#### 1. 株式分割の目的

合併に伴い株主の議決権割合が変更となる見込みであり、円滑に変更手続きを行うために株式分割を行っております。

#### 2. 株式分割の概要

##### (1) 分割の方法

平成30年10月31日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載された株主の所有する普通株式 1 株につき、1,000株の割合をもって分割しております。

##### (2) 分割により増加した株式数

株式分割前の発行済株式総数	17,640株
今回の分割により増加した株式数	17,622,360株
株式分割後の発行済株式数	17,640,000株
株式分割後の発行可能株式総数	60,000,000株

##### (3) 株式分割の日程

基準日公告日	平成30年10月12日
基準日	平成30年10月31日
効力発生日	平成30年11月1日

##### (4) 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響については、当該箇所に記載しております。

## 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- イ 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ロ 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ハ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業

者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。

- 二 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ホ 上記八、二に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

## 5【その他】

### イ 定款の変更、その他の重要事項

(イ) 三井住友アセットマネジメント株式会社は、関係当局の認可等を得ることを前提に、2019年4月1日に大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に変更する予定です。

(ロ) 2018年11月1日付で、発行可能株式総数を変更する定款の変更を行いました。

ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実該当ありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

#### イ 受託会社

- (イ) 名称 株式会社S M B C 信託銀行
- (ロ) 資本金の額 87,550百万円(2018年9月末現在)
- (ハ) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

#### 〔参考情報：再信託受託会社の概要〕

- ・ 名称 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・ 資本金の額 51,000百万円(2018年9月末現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

#### ロ 販売会社

(イ) 名称	(ロ) 資本金の額	(ハ) 事業の内容
S M B C 日興証券株式会社	10,000百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
高木証券株式会社	11,069百万円	

資本金の額は、2018年9月末現在。

### 2【関係業務の概要】

#### イ 受託会社

信託契約の受託会社であり、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

#### ロ 販売会社

委託会社との間で締結された販売契約に基づき、日本における当ファンドの募集・販売の取扱

い、投資信託説明書(目論見書)の提供、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金、償還金の支払事務等を行います。

### 3【資本関係】

該当ありません。

### 第3【その他】

1. 目論見書の表紙にロゴ・マーク、図案およびキャッチコピーを採用すること、ファンドの形態および属性、申込みにかかる事項、ユニバーサルデザインフォントマーク、委託会社の金融商品取引業者登録番号、当該目論見書の使用開始日などを記載することがあります。
2. 目論見書は、目論見書の別称として「投資信託説明書(交付目論見書)」または「投資信託説明書(請求目論見書)」と称して使用することがあります。
3. 目論見書に当ファンドの信託約款を掲載すること、および投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨を記載することがあります。
4. 目論見書は、電子媒体等として使用されるほか、インターネット等に掲載されることがあります。
5. 有価証券届出書の表紙記載情報を抜粋して、目論見書に記載することがあります。
6. 目論見書の冒頭または巻末に届出書記載内容に関連する用語集を掲載することがあります。
7. 評価機関等から当ファンドに対する評価を取得し、使用することがあります。
8. 有価証券届出書を個別に提出している複数のファンドの実質的な投資対象資産に共通性がある場合には、当該複数のファンドを一つの投資信託説明書(交付目論見書)で説明することがあります。このため、有価証券届出書に他のファンドの情報を合わせて記載することがあります。
9. 当ファンドとスイッチング対象ファンドにかかる投資信託説明書(交付目論見書)を一体のものとして使用することがあります。



**独立監査人の監査報告書**

平成30年 6月14日

三井住友アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤陽一	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	池ヶ谷正	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友アセットマネジメント株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友アセットマネジメント株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、平成30年5月11日付で会社及び大和住銀投信投資顧問株式会社の主要株主が、会社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する基本合意書を締結した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

**独立監査人の監査報告書**

平成31年1月29日

三井住友アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 陽一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているBDCプラス（為替ヘッジあり/年4回決算型）の平成30年6月16日から平成30年12月17日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

**財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査意見**

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、BDCプラス（為替ヘッジあり/年4回決算型）の平成30年12月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**利害関係**

三井住友アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

**独立監査人の監査報告書**

平成31年1月29日

三井住友アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 陽一 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているBDCプラス（為替ヘッジなし/年4回決算型）の平成30年6月16日から平成30年12月17日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

**財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査意見**

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、BDCプラス（為替ヘッジなし/年4回決算型）の平成30年12月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**利害関係**

三井住友アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

**独立監査人の中間監査報告書**

平成30年11月22日

三井住友アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小澤 陽 一 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友アセットマネジメント株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第34期事業年度の中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

**中間財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**中間監査意見**

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友アセットマネジメント株式会社の平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

**強調事項**

追加情報に記載されているとおり、会社は、平成30年9月28日開催の会社の取締役会において、会社と大和住銀投信投資顧問株式会社との間で合併契約を締結することについて決議し、同日付で締結した。また、平成30年10月31日に会社の臨時株主総会において当該合併契約の承認を得ている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。 2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。